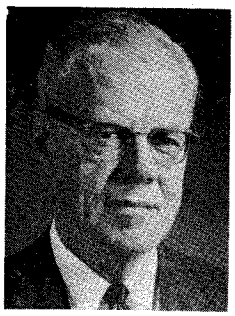
1968年10月20日発行（毎月1回20日発行）第12巻第10号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖法の道

10



心の糧

十二使徒評議員
リチャード L. エバンズ

若い人々，実に全ての人々に申しあげる。救いと卓越と昇栄に近道はない。平和を得，自らを尊ぶことにおいても同様である。

あなたが誰れであろうと，どこに住んでいようとも，人生を無駄にしてはならない。人生こそあなたの持てる全てなのである。

研究し，学び，備えをなし，律法を守り敬い，かくして自らを救いなさい。「怠惰なるを止めよ。不潔なるを止めよ。…」(教義と聖約88：124) 誡命を守りなさい。すなわち資格を得，目的を達成するために働き，良心に恥じない生活をしなさい。

現世は怠惰と失望の時ではない。今こそ学んでこれを修め，行なって進歩を計り能力と資質を益々のばす時である。この人生はかくも短く，永えの世は限りない。老いも若きも，熱心な人も我慢のない人も，疲れはてた人も，道を失ったと思う人も，信仰を守り，奉仕，労働，成長，悔改め，克服をし続けなさい。神の聖なるご計画と目的である保障のもとに勇気と慰めを得なさい。

為すべきことをし始めるに決して遅過ぎはしない。神は，我々に守れない要求や命令を決して下してはおられない。

もくじ

予言者の言葉
「真に価値あるもの」……大管長 デビド O. マッケイ……29
「祖先の遺産」……エベリン・ウイッター……30
「監　督」……ビクター L. ブラウン……31
「宗教と社会的責任」……ローエル L. ベニオン……33
「人口の激増」……スペンサーW・キンボール……35
「聖書の文化的霊的影響」……ロバート J. マシエーズ……36
「モルモン」……マリオン D. ハンクス……38
「モルモン・ユーモア」……39
管理監督会のページ
「両親の皆さんへ」……ジョン H. バンデンバーグ……40
「すばらしい発見」……リンダ・ラッド……42
「忘れることの効用」……シルビア プロブスト ヤング……43
日曜学校
「教えるとはただ語ることか」……ライマン C. ベレット……44
若人のページ
「それは誰れにでも起る」……メアリー・ケンワージー……46
「精錬の火」……マリオン・ベンチ……47
系　図
「霊　界」……49
「老いた漁夫」……メアリー・バーテルズ……51
ローカルページ……52

子供のページ

ちょうちょどろぼうのひみつ……9
動物にえさをやりましょう……12
ほそながいかみきれであそびましょう……12
ふつうのおとこの子……13
ピーターのおばさんたち……14

今日の表紙

今月は偉大な予言者，軍人であったモルモンが表紙です。これは，聖なるニーファイ人の記録を記している絵の一部分で，全体の絵はインプルーブメント・エラ誌1968年4月号の12ページにのっています。

モルモン経に名前を名付けられたこの予言者について，七十人最高評議員会のマリオンD. ハンクス長老が本誌38ページで語っています。

絵は，コネチカット州東ノーウォークに住むアメリカの有名な画家，トム・ロベルによるものです。ロベル氏は1967年に依頼されて今年の二月にこの絵を完成しました。

ロベル氏の作品は他に，リーダーズ・ダィジェスト，アメリカン，作家，家庭の友，マコールズ，婦人ホームジャーナル誌など，数多い雑誌にのっています。彼はニューヨーク市画家協会から金メダルを贈られました。

大管長 デビド O. マッケイ

真に価値あるもの

（このマッケイ大管長のメッセージは，今年4月の第138回年次総大会の閉会にあたり述べられたものである）

私は，教会員ならびにあらゆる人々が福音と自らの霊の成長について，より深く考え，滅び去ってしまう事どもに時を費すことなく人生の真に価値ある事柄に，より多くの時間をとるように切に願うものである。

私は，この大会において，この世の様々な誘惑に立向うために与えられた数々の教えに心より同意するものである。

もしも，教会員がこれらの提案を受け入れるならば，それだけでその人々を丘の上の「光」，すなわち隠れることなき「世の光」とするに十分であろう。

時折，このような教えを「ささいなこと」であると思いがちであるが，実はそれこそ，この人生で最も大切な事柄なのである。

もしも我々が，このような助言により多くの注意を払い，教義と聖約中にあるような近代の啓示をさらに深く研究したなら，この神権時代に確立された偉大な御業に対する感謝の念がますます強くなるにちがいない。

教会はこの世で最も大切なものであるとよく言われるが，正にその通りである。我々は，個人の生活や家庭生活，ひいては社会生活に，教会の教えがいかによく適合するかを悟ってそのことに注意を払い，科学的発見や人の行末という立場から，それを研究すればするほど，イエス・キリストの福音を知る特権をお授けになった神の思し召しにますます喜ぶのである。

我々が今日必要としているものは，単に心に思うことではなく，我々を行動へと駆り立てる生けるキリストへの信仰…すなわち人生に目的，心に勇気を吹きこむ信仰なのである。

我々は「応用の福音」，すなわち敵の注意と尊敬をもひきおこす気高い行いによって説かれる福音を必要としている。偉大なる教師，この世で最も偉大なる人イエスをただ信じているだけでは，世の悪と戦うには不十分であることがよく知られてきた。

明らかに，世界が必要としているのはあらゆる人のうちで最も偉大なる「ガリラヤ」の人をただ受け入れること以上のものである。我々をとりまく現状の光の中では特にそうである。

実に欠くことのできないものは，イエスを神より遣わされたお方，主であり救い主であると信ずる信仰なのである。

それは，使徒ペテロが「あなたこそ，生ける神の子キリストです」（マタイ16：16）と宣べた時にあらわしたと同様の信仰である。

教会員は研究と信仰と祈りによって真理を知り，「徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあることあるいは褒むべきこと」を全てたずね求めるように奨められている。（信仰箇条第13条）

学校や教会は，全ての人の幸せに必要な，変ることなき確かな基いが，人生に存在する，という事実を広めるべきである。両親と教会の役員は，若人がその人生の形成期を通じて正しい調和がもてるように，生命と救いの原則をシオンの若人と世界に，さらに熱心に勤勉に教えなければならない。

聖なる神権を持つ方々に思い起してほしいのは，神より与えられた非常に簡単ではあるが，力強く現わされた，神権の管理に関する啓示を再び学ぶことである。

> 如何なる権力も勢力も，神権によりて維持する能わず，または維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。
>
> また，親切と浄き知識すなわち偽善にあらず好智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。
>
> （教義と聖約121：41～43）

これは神権定員会を治めるだけでなく，我々の家庭にも，また実に社会のあらゆる団体にもかかわるすばらしい訓戒である。

兄弟姉妹，皆さまは，福音が我々の錨であり，それが何を意味するかを知っておられる。もしそれに従って生活し，福音を，神権を，家族をそして隣人を讃えるなら，より幸せを感ずるようになり，実際にイエス・キリストの福音を説くことになるであろう。同胞に福音を伝える責任と義務は我々に与えられているのである。何か特別な機会が訪れるまで，イエス・キリストの福音を宣べることを控える人があるが，毎日，そのよきおとずれを宣べる責任が我々に委ねられているのである。我々は，家庭生活，仕事，社会活動，政治の場において，我々に託された世の人々に「よきおとずれ」を伝え

る責任を果すべく，人々と交わるありとあらゆる所で，行いによって伝道するのである。

思いと口を慎しもうではないか。家庭や都市や国家を立派に築きあげる最良の方法の一つは，つねにそれらを，ほめたたえることである。いつでも言葉を抑えられるようにしようではないか。

すべての教会幹部，役員のために支持の祈りをしてくれる献身的で，忠実な教会員の上に神の祝福があらんことを。おわかりと思うが，皆さま方のその祈りが確かに聞きとどけられていると申しあげたい。

思いやり深い天父の霊感と加護が確かにあることを，皆さまと全世界の人々に証しするものである。

天父は，遠くにおりたもうと考えている人もあるが，かた時も離れることなく，教会の近くにおり給うことを，私はよく知っている。天父は思いやり深いお方であり，その子供たちの福祉を心にかけいつでも喜んでその祈りを聞き，答え給うのである。時々賢明な親が子供の願いを聞き入れないように，主は祈りに答えられないことがあるかも知れないが，当事者に最も必要な時にはいつでも喜んで答え給うのである。

全世界の78の伝道部にある我が教会の宣教師を神が祝福されんことを。彼らは福音に対して強い証詞と豊かな信仰を持ったすばらしい青年男女であり，主とその教会のすぐれた代表者である。

我々は彼らを誇りに思い，進んで立派な奉仕をなさる我が教会の伝道部長各位と宣教師諸君に，またこれら宣教師を支援される両親その他の方々に深く謝意を表するものである。

戦火により死傷者を出された家庭の痛苦を思うにつけ，我々はその心痛と悲しみを言い表わす言葉もない。

人類の自由と生まれながらの権利のためにすべてを捧げるあらゆる若人と共に，我々はつねに祈りを捧げるものである。私は，彼らが神に対して信仰厚く，従順であり遠い道のりを旅して教会の集いに臨むことを，つぶさに伺い感謝に満たされている。

戦いの試練と苦難と恐怖に耐えている彼らにとって，贖い主キリストの保証は何んと意味深いことであろうか。それはホームシックと落胆した心をなぐさめ，清い生活をして，奉仕に適しいものとなろうとする決意をより固くし，義務を遂行する勇気を与え，病み傷ついた時に希望に目覚めさせるのである。また万一彼らが避けがたいことがらに直面する時にキリストが死後よみがえった如くに彼らもまた生きるというおだやかな確信に満たされるであろう。これら若人に神の祝福とみ守りがあらんことを。

神の王国を築き上げるべく，時間と財産を捧げている地区代表者，ステーキ部長，監督とすべての役員のみなさまに神の祝福があらんことを。

家庭において両親のみなさまに祝福があり，子供たちにけがれなき心身を得させる知恵と理解とを求められんことを。

両親がなすべき最大の務めは宗教的な躾をし，子供の人格を高めることである。

神がみなさまとあらゆる人々と共に在り，我々が主に心を向け，人生の霊的なより価値あるものをさらに多く求めんことを。天父なる神は我々の望むところを知り，我々が主を求め，その道を学びさえすれば我々を助け給うであろう。

みなさまが家庭に帰られた時に私の祈る祝福が共にあり，我々すべてが，霊を高め，健全な信仰をふるいたたせるような家庭，学校，教会，社会を築き上げる責任をひき受ける時に神が助け給うよう，イエス・キリストの御名により祈り奉る。アーメン。

祖父の遺産

祖父が亡くなった時，遺産のお金はわずかでした。お金が役立ったことはもちろんですが，それがどんなためになったかをはっきりとおぼえていません。私はそのお金が貯金に加えられて，必要な時に使われたということしか知りません。

しかし，机の中にあった私あての手紙から得たことは忘れることができません。祖父が骨おって記した手紙の中には，彼の生き方が書かれてありました。私はその手紙から生涯の暖かい導きを得たのです。

そこには次のような言葉が記されていました。

教会があなたにしてくれることは，あなたが教会に対して行なっていることと同じだけの量なのだ。

クリスチャンは，あなたにとって最良の時はいつでしたかと問われる時に，「明日です」と答えるものだ。あなたは誰れかに讃美歌をわたす時，それを失礼な行ないとすることもできるが，その時の少しの親切によって，人をキリストへ招くきよらかな行ないとすることもできる。

教会で働く時，このことを忘れてはいけない。よい集会というものは，すべての人が大切にされて，一人占めにする人もいなくみんなが参加して，誰がリードしても大丈夫な集会なのだ。

教会にキリストを招くのに最もよい方法は，あなたがキリストと共にいることだ。

パウロは「この事実をわれ知る」と言った。多くのクリスチャンは，キリスト教の中の一つのことに固執しながら自分を賢明だと考えている。日曜学校で教え，集会を司会し，献金を集める——そのような「事実」に満足している。だがパウロの言った「この事実」とは，一つの町にすむ大勢の人々にさまざまな生活があるように，複雑なものだ。演説，静かな会話，祈り歌，手紙，討論，旅行，組織，つながり，侮り，非難，讃美……。あなたも知っているように，この事実は人々が無精になんでもかんでも引きあいに出してよい安全なテキストではない。義務をひきのばすことは，それを行なう力をなくすことだ。

——エベリン・ウィッター——

監　督

ビクター L. ブラウン

この歴史的に有名なタバナクルの中には世界の様々な所からこられた方々が座っています。その一人一人は他の人々と違った責任をもっています。私達はほとんど毎週末それぞれのステーキ部の監督達と会う機会があります。そして今日一般大会で監督達に会うことができます。私達は彼等に深い愛と尊敬の念を禁じえません。そして彼等が為している素晴しい働きに感謝しております。

以前，私が監督に召された時，私はほとんどその責任について知っていませんでした。私がそうでした様に教会の他の会員達も多分監督の責任がどんなものであるか知らされていないだろうと思います。監督（以下支部長は監督に準じて考えてください）は教会の全ての会員にとって重要な人でありまたそうあるべきなのです。もし監督が私達にとって大切であるなら，私達も監督にとって大切であるにちがいありません。監督を会員達ともっと親密にさせることよりも，会員が自分達の監督にもっと親しくなる様に助けることが出来るようにと祈っています。

監督を理解するためには彼の責任のいくつかを知らなければなりません。それは沢山ありますが時間が限られているため，その内の2，3についてのみ話しましょう。まず初めに監督のこの世的な二つの責任，すなわち貧困や金銭的なことの世話があります。

時々私達は教会が行なっている福祉計画についての話を聞きます。監督は福祉計画を実施するのにおもな役割をはたします。監督のみが助けを必要としている人にどの様に助けを与えるかを決定し，どの程度助ける必要があるかについて扶助協会会長の助けを借りるのです。

監督は愛と親切と理解の精神をもってその仕事をします。大切な目的の一つは，その人々の自尊心と体面をこわさないようにすることです。監督はこの福祉計画を行なうのにはっきりした原則を持っています。

第一の原則は教会の会員である私達が自己をたのみ，独立することです。私達は本当に困難な時に備えて一年分，必要なものを貯えるように教えられています。もし「突然に起こる大きな」事故や病気のために助けが必要になった時，私達は自分の家族の世話をするべきであり，それが出来ない時に始めて監督に頼るのです。

個人的に注意深く調査した後に監督は教会が助けを与えるべきかどうかを決定します。援助が必要であると決定されたら，それは生活の必需品のみに限られて，彼が立ちなおって家族の世話をすることが出来るようになるまでそれがなされます。監督は私達のずさんなやり方のために起こってくる財政困難を援助する必要はないのです。

監督が助けを与えて，もし彼にできるならばその援助の代りとして奉仕するように望まれています。それは施し物としないことによって自尊心をきずつけないようにするためです。たしかに，多くの場合，施し物を与えるのは簡単な方法であるかもしれません。しかし監督は時として施し物は罪悪と同じになると知っていますし，私達を弱くせずにこの計画によって私達に祝福を与えたいと望んでいます。

この福祉計画には，断食献金，福祉事業，ワード部予算や監督の倉庫などが含まれています。私達は教会の会員として監督やワード部の福祉委員会の様々な呼びかけに協力しなくてはなりません。この計画は限られてはいますが（ステーキ部のある所）全世界で実施されています。どこにあっても私達はきめられた標準で監督を助けなくてはなりません。

さて，監督はワード部の問題を処理するにあたって，そのワード部の会員達が財政的援助を必要としているかどうかに注意を払わなければなりません。

監督のもつ大きな問題は，教会堂を維持したりワード部予算の資金です。私達はワード部の会員として監督の財政的な要請に応じることによって本当に良い助けを差しのべることが出来ます。もし私達が什分の一や断食献金を正しく納めるなら，主は天の窓を開いて受けとることが出来ない程沢山の祝福を与えるであろうと言われました。

監督は集められた全ての資金は神聖なものであり，自由意志によって捧げられたものであることを知っています。私達は財政的な問題について監督を喜んで支持することによって重荷を軽くする助けが出来ます。

さてこれまで，私達は物質的なことばかり話してきましたが，監督の霊的な責任のいくつかについて考えてみましょう。

主からの啓示によって，監督は祭司定員会の会長であります。監督と副監督はワード部におけるアロン神権の会長会を構成します。監督は少年少女達に関係するあらゆる事柄の隅の基石なのです。副監督や，ホームティーチャー，アロン神権主事，系図アドバイサー，補助組織の役員，教師達から助けを受けますが，監督は全てのことについての要石なのです。

若い人々に私は次のように申し上げたいと思います。――監督は私達の天父の霊感によって貴方達の霊的な助け手として召されている人であります。彼は主によって皆さんの公平な裁判官として指示されているのです。監督は見抜く力と理

解する力という特別な祝福をもっています。私達は罪を告白するために彼を訪れるべきです。もし私達が完全に悔い改めをしたいなら必ずそうしなければなりません。監督は自分が裁判官であることは主の祝福によることを知っています。もし監督が正しくない裁判官であるなら，聖句にあるとおりに批難されます。「曰く，神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして，天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなりと。この権能のわれに与えらるる事もあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし，われらの高慢，空しき野望を充たさんと企て，または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し統御し，強制せんとする時は，見よ諸天は退き去り，主の『みたま』悲しむ。主の『みたま』退き去らば，神権またはその人の権威は終りなり。」（教義と聖約 121：36～37）

監督はどんな罪をも叱責しますが同時に罪人に対して偉大な理解と寛大さを持っています。監督は人生の多くの問題を知っていますし，特に人々が人生の困難な問題で悩む時に手をさしのべたいと願っています。助けてもらいたいと思う時に，監督はいろいろな方法で貴方を助けることが出来ます。貴方が監督に話すことは，神より命じられた絶対の義務として誰にも話されない様に保たれます。監督の賢明な助けによる祝福をどうぞ求めて下さい。監督に何んでも話してごらんなさい。急がしいからといって助けてくれないことは決してありません。

いままで監督の責任について説明しましたが，まだほかに大切な霊的責任があります。監督はワード部の霊的面の父親であり管理大祭司でもあります。この責任は私達皆んなをあまねくおおってゆきわたります。

監督には沢山の助け手があります。それはホーム・ティーチャーです。ホーム・ティーチャーは神権をもっている人々の責任です。この責任が忠実になされたら監督の背おう大きな重荷を軽くすることが出来るでしょう。ホームティーチャーは監督にとって本当の助け手であります。ホームティーチャーは家族と一番つき合いがあります。一人の監督は最も貴い讃辞を述べています。彼はある家族が病気の時に真先に自分達のホームティーチャーを呼んだと語りました。マッケイ大管長ももしホームティーチャーが自分達の義務をはたしていたら，家族が亡くなった時には真先きに監督ではなくホームティーチャーが招かれるでしょうと述べています。ホームティーチャーは一人一人自分の責任を理解し監督の助け手として自分の義務を遂行するように手伝いましょう。

監督はワード部の父親として他に沢山助け手を持っています。ワード部の責任者や教師それぞれが監督を助けますし，ワード部の会員として私達は監督からの呼びかけに答える責任があります。監督は私達が個々の責任をはたす様に期待していますし私達全ての助けを必要としています。その助けによって主の業を押し進めることが出来るばかりでなく，私達一人一人は他のどんなものからも得られない幸福な気持に満たされるでしょう。なぜなら父なる神のために私達の愛をしめすわけですから。聖典に「ごらん，私がこれらのことを言うのは，お前たちに知識を与えるためであって，またお前たちが同胞のために務めるのは，ただお前たちの神のために務めるのであること悟らせるためである」（モーサヤ21：17）と述べられているとおりです。

私達が今まで話してきたこの監督は一体だれでしょうか。その人は隣り人であるかもしれません。また貴方の親友の息子さんかもしれませんし，貴方が憶えているように，ほんの数年前まで日曜学校の貴方のクラスでさわがしいためにクラスから追い出されて，もうその部屋に戻らないようにと思った人であるかもしれません。

監督はほとんどの場合夫であり，父親であり一家の大黒柱なのです。そして貴方や私のもっているような同じ問題に直面していますし，人間的なもろさや弱点もあります。また好みや嫌いなことも，またいくらか特異な個性を持っているかもしれません。そうなのです。彼も人間なのです。しかし，特別な祝福と特別な召しをいただいている故に特別な人なのです。主は「さて監督は非難のない人で，ひとりの妻の夫であり，自らを制し，慎しみ深く，礼儀正しく，旅人をもてなし，よく教えることが出来，酒を好まず，乱暴でなく，寛容であって，人と争わず，金に淡泊で自分の家をよく治め，謹厳であって，子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。自分の家を治めることも心得ていない人が，どうして神の教会を預かることができようか，彼はまた信者になって間もないものであってはならない。そうであると，高慢になって悪魔と同じ審判を受けるかもしれない」（Ⅰテモテ3：2－6）と語られています。

この人，すなわち貴方の監督はその責任を自分で志願したのではありませんでした。おそらく恐れにふるえていたにちがいありません。しかし主が期待しておられるように自分自身を完全にしたいという信仰と希望をもってその召しを受けたに違いありません。

愛する妻や子供達も，彼がほとんどの時間を家庭から離れていても不平を言わず，食事中や朝の三時頃に電話のベルがなる時にも不きげんな顔をしないで，普通なら当然夫や父親がするべき責任をも自分たちが喜んではたすことによって彼と共にその責任に貢献しているのです。

主の最良の祝福が，この素晴しい忠実な監督や妻や子供達の上にそそがれるでしょう。そして私達はそのワード部の会員として彼らが若すぎると思えたり，自分で選んだのではないと考えたりしてもその指導に従うでしょう。主は私達を管理するよう召された僕を支持することによって私達を祝福したもうでしょう。私はこの教会がまさしくイエス・キリストの教会であり，この教会の監督が，私達を管理する人々に霊感を与えたもう天父によって召された人々であることをイエス・キリストの御名によって証しいたします。アーメン。

宗教と社会的責任

ローエル L. ベニオン

わたしは何をもって主のみ前に行き，高き神を拝すべきか。…（ミカ６：６）

主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか…（詩篇24：３）

これは予言者，詩人，そして神の道を熱心に求める人々によって何度も何度も熱烈にくり返された質問である。そして，その答は単純でなく，いろいろな具合に表わすことができる。その質問に答える人は各々自分自身の答え方が正しいことを証明するために聖典の一節を見つけることができる。その答がどのようなものであろうと基本的な質問はあらゆる人々に残されている。——わたしは何をもって主のみ前に行くべきか。何をもって宗教生活は成り立っているのか。

宗教生活の範囲

自分が宗教的であると考えている人はみなこの基礎的な信念と感覚をもっている。その人は自分の確信と生き方のゆえに宗教的なのである。自分達の宗教を生活の中に実践している人々の典型的なやり方，自分達が宗教的であると自認する人々のもつ考え方や生活の様式を探るのは興味のあることである。

人々が自分達の宗教を実践する方法は少なくとも５つある。私達の生活の特徴はいずれもこれら５つの方法の組合せで明らかに識別できる。すべてが明らかになるまではどんな評価も試みることなしにそれらをここに述べてみよう。

(1)人は自分が真実であると思うある信念を抱くならば宗教的である。たとえば，末日聖徒は福音の回復や信仰箇条を信じ，生きた予言者の生活に対する神の導きと，彼の教えの中に明瞭に示されているその他の原則などを信じている。信仰こそは宗教生活の柱石なのである。

(2)人は自分の宗教生活とその信仰している知識とを同一のものと認める傾向にある。伝道地においては，人は聖典を学び，教義を研究しているがゆえに自分は宗教的であると感じる。原則を知ることはその人が宗教的であることを確かめるのに役立つ。

(3)第３の方法は教会に加入することである。末日聖徒にとってこれは容易に実行できることであり，また豊かな報いがあるものである。主を礼拝し，同胞に奉仕し，福音の賜を分け与え，私達がイエス・キリスト教会として知っている組織の手段を通して平和と心と意志と熱情をもって神の王国を築き上げる方法は無数にある。

(4)宗教的であるための第４の明瞭な方法は神——父なる神，御子聖霊——と交わりをもつことである。私達はこれを霊的な面と呼びたい。人は神に対して感謝，謙遜，畏れ，尊敬，讃美，信頼，愛などの感情を抱くとき，その程度に応じて宗教的である。これらの感情は詩篇の中に描かれている。

……主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。（詩篇27：１）

主はわたしの牧者であってわたしには乏しいことがない。（詩篇23：１）

わたしはあなたのほかに，だれを天にもち得よう。地にはあなたのほかに慕うものはない。わが身とわが心とは衰える。しかし神はとこしえにわが心の力，わが嗣業である。（詩篇73：25，26）

わたしはどこへ行って，あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って，あなたのみ前をのがれましょうか。わたしが天にのぼっても，あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても，あなたはそこにおられます。わたしがあけぼのの翼をかって海のはてに住んでも，あなたのみ手はその所でわたしを導き，あなたの右のみ手はわたしをささえられます。（詩篇139：7—10）

(5)宗教の第五の側面はその人と他の人々との関係の中にあらわされている。ユダヤ人のクリスチャンの信仰においては，人から人へ正義と慈悲を行なうことによって自分の宗教を実践している。

だから，何事でも人々からしてほしいと望むことは，人々にもそのとおりにせよ。（マタイ７：12）

父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは，困っている孤児ややもめを見舞い，自らは世の汚れに染まずに，身を清く保つことにほかならない。。（ヤコブの手紙１：27）

…自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。(マタイ22：39)

評価された宗教生活

宗教的であるためのこれら五つの方法はいずれも正しい。宗教的な人は人生に動機と方向を与える信念をもっている。これらの信念を研究することは意識を高め，意味を深める。教会の生活においては，信者は教えや，福音の賜と祝福を受け，彼の同胞を強くするのである。そして確かに神への信頼と隣人への思いやりは自己の宗教を実践するための基本的な方法である。

宗教生活の大要の中において，宗教的であるための最後の２つの方法に重きが置かれている。たとえば，十戒においてはじめの四つの戒めは神と人間の関係についてであり，あとの六つは人と人の関係についてである。「わたしは何をもって主のみ前に行くべきか」という質問に対するミカ自身の答えは重ねてこう強調している。

人よ，彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない，いつくしみを愛し，へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。（ミカ６：８）

さらに同じような意味において，

「先生，律法の中で，どのいましめがいちばん大切なのですか」という質問に対してイエスは次のように答えられた。「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ』これがいちばん大切な，第一のいましめである。第二もこれと同様である，『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』これらの二つのいましめに，律法全体と預言者とが，かかっている」（マタイ22：36～40）

これらのことばから，単に信じることや宗教的知識や教会生活に加わること自体には，さしたる値うちがあるわけでないことがわかる。人生を有意義なものにするには，神と人を愛する人となるよう

に他人を導かねばならない。ヤコブはこれを知っていた。

あなたは，神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ，信じておののいている。

そしてパウロは愛のない知識の限界を知っていた。

たといまた，わたしに予言をする力があり，あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても，また，山を移すほどの強い信仰があっても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい。……わたしたちは今は，鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には，顔と顔とを合わせて，見るであろう。わたしの知るところは，今は一部分にすぎない。……いつまでも存続するものは，信仰と希望と愛と，この三つである。このうちで最も大いなるものは，愛である。（Ⅰコリント13：2，12，13）

予言的な宗教はその創始者への啓示をもって始まり，それは彼を同胞の利益となるような行動へ駆りたてる。モーゼは，燃える柴の前に立ち，彼が聖なる地に立っていて神がイスラエル人の苦悩を見て彼を呼びたもうたことを知った。イエスは荒野で40日間を過ごし誘惑と闘い，御父に強められながら，しかもなお「良いことをしようと努力したもうた。」使徒パウロはキリストと出会い，自分の心と行ないをクリスチャンの方へ向け変えた。ジョセフ・スミスは父なる神と御子に会い，それから続いて福音の回復が起り，その福音は「人の不死不滅と永遠の生命」をもたらすことを大いに強調している。

宗教は人間のことを考慮して予言者を動かす神からの啓示をもって始まる。宗教が組織化された団体になってくると，はじめに神から受けたメッセージは人間の好奇心によってあいまいなものにさせられる。神と人間にかんする本来のことがら，組織に関する事柄，儀式，習慣，外見上の成果，地位のもつ役割などにおける大きな利害関係ととって替えられる傾向にある。このことはアモス，ホセア，ミカ，イザヤ，エレミヤの書の中に力強くかつ詩的に描かれている。彼らの時代にはエホバの選びたもうた人々は示された場所で示された時に宗教の形式的な儀式をすべて実行していたと同時に貧しい者をくつ一足のために売り，目方や量をごまかし，小麦にくずものをまぜ，やもめやみなし子をしいたげ，裁き人にまいないを贈り，鉢をもって酒を飲み，いとも尊い油を身にぬり，イスラエル人の同胞であるヨセフの破滅を悲しまないような行ないをさかんにしていたのである。（アモス６：６参照）

同胞に対する道義上の責任を無視して背きながら，形式化された宗教を通して神に讃美と栄光を帰することの浅はかさ，空しさ，偽善について，イスラエルの予言者達のように力強く説いた者はいない。アモスはエホバの言葉を宣言している。

「わたしはあなたがたの祭を憎み，かつ卑しめる。わたしはまた，あなたがたの聖会を喜ばない。

たといあなたがたは燔祭や素祭をささげても，わたしはこれを受けいれない。あなたがたの肥えた獣の酬恩祭はわたしはこれを顧みない。

あなたがたの歌の騒がしい音をわたしの前から断て。あなたがたの琴の音は，わたしはこれを聞かない。

公道を水のように，正義をつきない川のように流れさせよ。」（アモス５：21—24）

これは予言者のメッセージであり，交響曲の主題のようにいつもくりかえされた教えである。神は本来義なるお方であり，廉潔であわれみに富んだお方である。人は同胞との関係において誠実と慈悲を行なうことなくしてこのような方にこころよく仕えることはできない。

ミカ，あるいはイエスの教えの中においても，神は他の人々を自分と全く同じようにあつかっておられる。「神の手になる御業」をほめたたえることなしに神を讃美する方法は全くない。この基本的な教えは何度も聖典を通じてもたらされている。それを示してみよう。——アミュレクは人々が必要なことを願い求めて祈るよう勧めて，次のように結んでいる。

「……これで満足だと思ってはいけない。たとえこれらのことをみな行っても，もしも貧しい者や着る物のない者の願いをことわり，病んでいる者，あるいは悩んでいる者を見舞わず，持物がありながらその幾分を貧しい者に施さないならば，あなたたちの祈りは空しくなってその効果はなく，またあなたたちは神の言葉を否定する偽善者のようになるであろう。」（アルマ43：28参照）

ヨハネは同じ気持をもって書いた「『光の中にいる』といいながら，その兄弟を憎む者は，今なお，やみの中にいるのである。」（Ⅰヨハネ２：９）

今日への応用

一般的な原則を語って，古い時代を描写することは容易である。どれを適用するにもひどく妨害されたり，排除されたりした人はいなかった。しかし，これらの聖書にもとずいた訓戒が今日の言葉に翻訳されると防御と，紛争がひきおこされるのである。誰かが言った。「(抽象的に）すべての人を愛するのはいたって簡単だ。我々が特定の人に限るときに困難が伴なうのだ。」

20世紀においては，社会は次第に複雑になってきている。議論は簡単でも明瞭でもない。私達はこれを認める。以前の時代のきまりでやっていくことはできず，またただ単に乞食に与え貧しい者に着物を着せるというわけにもいかない。社会の多くの問題は単純な，個人対個人の関係を基礎とするようなものとはちがった方向へ向かっているにちがいない。しかしながら，基礎的な哲学，多くの時代を通して教えられた基本的な要点は依然として正しいのである。神に仕えるためには，人はその同胞にもまた仕えなければならない。私達はそうするための勧告についてでなくてその方法について議論するのである。

それゆえに，どんな意味でも個人を裁くことを欲しない。私達は「主の山に登る」ことを望んでいるすべての人の社会的責任のいくつかを示唆してこの章を結ぶ。——古代のイスラエル人にはできても——私達は住居や教会堂の中でひそかに宗教に生きることはできず，市場，学校，ハイウェイや間道において他人の生活に対する私達のふるまいの影響を無視することもできない。

現代の生活は冷酷で非人間的になる傾向がある。人間は親しい仲間の枠外にあっては，人間同士の目的のための手段，人間に利益を与えるための単なる機能にすぎなくなる。それらの人々は失業者，その年に交通事故で死んだ人々，大学に出席している人々，あるいは更に教会でバプテスマを受けた人々についての統計表にのるにすぎない。願わくば私達が非人間的な現代にいくつかの領域を思い起すことができるように。

誠実さと公正な取引

大会社，スーパーマーケット，高速道路にあるサービスステーション，行政機関との大きな契約などに代表される非人間的なビジネ

ス・リレーションの現代には，個人に対して不誠実，不親切にさせようとする誘惑が増加しつつある。人々は知らない人をだまして公共の機関から利益を得ようとするが，隣人から盗もうとは決して考えない。速度計の読みは転売するために変えられ，所得税の書類は不完全で，商品は値をつり上げて，特別に見切売りのために運ばれる。荷物は車に積めるだけ積んで運搬されることもある。教師は生徒を，弁護士は依頼人を，医者は患者のことを考える前に自分自身の利益を目あてに仕事をしたがる。

私達はみな道徳的及び宗教的原則にさとくなって，仕事や専門的活動においてもそれに厳格に従わなければならない。二重の生活をすることは簡単である。――一つは個人的な関係においてであり，もう一つは仕事においてである。

大きな共同社会における困難

豊富な活動内容とそれを職業としない指導者から成る教会は，活発な会員の余暇を必要とする。このこと自体は良いことである。人は他のどこで神と人に奉仕することができるであろうか。しかしながら，私達は大きな社会のメンバーでもあり，共同社会，国，及び世界の住民でもある。末日聖徒は自分達の教会におけると同様にこの大きな社会における住民としての責任を果たさなければならない。

その時の社会的政治的問題について研究し討論し，また市民生活においても活発に活動する必要がある。現代の町においては，多くの社会的奉仕機関――たとえば，家庭奉仕，精神衛生施設，社会奉仕審議会などはみな市民一般大衆の活発な支持が必要である。成人の末日聖徒はみな，健康上のまたは個人的事情による例外を除いては，自分の教会に対すると同様にその属する社会に対しても立派な奉仕をすべきである。

人間の権利

今日の世界や作家の評論の中に見られる，共産主義に関することよりもさらに大きな問題は，すべての民族，文化，社会に属する人々の人間としての価値と尊厳をよく認識する必要があるということである。

人間は経済的，政治的，宗教的，人種的，またはその他の理由によってその同胞を支配し侮辱してきたという長い恥ずべき歴史をもっている。

宗教と人間性の名において，このような行為は終りにしなければならない。人々は互いに他より優れた才能や多くの財産，その他まさったところをもっているが，しかし人間としての優劣があるわけではない。私達はみな同じ地球に住む同じ創造者の子供である。神はどの人も同じように愛しておられる。私達が少なく愛して良いであろうか。すべての人間は食物，着物，住居，愛，自尊心，創造的な自己表現を同じように必要としている。

モルモン経に記されている

「あなたたちは自分の兄弟を自分自身のように思え。……神の目にはこの人もあの人も同じように大切である。」（ヤコブ２：17，21）

「……主は人間の中でためになることを為したまい。……万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから，主の御許へくる者は黒人と白人，奴隷と自由人，男と女の区別なく誰を拒みたもうこともない。また主は異教徒さえもかえりみたもうから神の，御前にはユダヤ人も異邦人もみな平等である。」（Ⅱニーファイ26：33）

人間は社会的存在である。兄弟愛は福音と生活の最も基本的な律法である。他のどんなものを持とうとも，キリストの福音と教会においてどんな地位にあろうとも，もし愛がなければ，「何の役にも立たない。」「これにより，汝等は私の使徒であり，汝等互に愛すべきことを知るべし。」私達がキリスト・イエスを通して神の愛に私達自身を委ねるとき，人々の間に愛と正義を学びかつ実行することを最も深く考慮しなければならない。

人口の激増

1968年に，予言者が十二使徒や七十人やその他多くの長老や姉妹を全世界に伝道するために送り出す時は，32.5億の人々がおり，それは18世紀前半に最初の組織ができたときの18倍の数である。モーゼがエジプト人の奴隷からイスラエルの子らを導いた時全世界にはたった2,500万の人がいたにすぎないと見られている。そしてキリストが生まれた時は2.5億で，十字軍が遠征し，コロンブスが大西洋を横断し，ピルグリムファザースがやってきたときは５億であって，６世紀の間は戦争やペストや飢饉などによって自然増加分が相殺されて人口はほとんど同じ状態を続けた。

1830年に教会が組織された時地球上には10億の人々がおり，その100年後，私達が100年祭を祝ったときにはまた10億増加しそれから更に31年後にはまた10億増加したと見積られている。そして更に14年すぎればもう10億増加するかもしれない。あなた方のほとんどが生きている間に地球上の人口は70億になるはずである。そして，それから１世紀の間に，420ないし450億の人々が地球上にいることになるかもしれない。それで私達は人口の激増によってなくなってしまう前に仕事にかからなければならない。

私達は落胆してはいない。なぜならば，私達の割合はいつもよくなりつつあるからである。1830年4月6日には，1億6,600万の人に対して一人の末日聖徒がいた。1840年には35,000人に一人，1920年には3,400人に一人，1955年には1,800人に一人，そして今日では世界のおよそ1,500人のうち一人が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である。私達は多勢になりつつある。

――スペンサー・W・キンボール長老

聖書の文化

ロバート J. マシューズ

スチュワード・ロバートソンは著書「ファミリーサークル」の中で聖書について述べている。

「聖書はいつでも，一番よく売れる本であり，また誰でも良く知っているようではあるが，その実，誇りの仮面を脱いでみると，何も聖書を知らないことに気がついて，謙遜にならざるを得ない。聖書はもっとも高価であり，一番安価な本でもある。図書館や博物館に大切に保存されてあるかと思えば各家庭に信頼をこめておかれている。明らかに，それは最も神秘的な本でもあるのだ」

聖書の呼名はいろいろあって，「書」(The Book)「良き書」(The Good Book)「書の書」(The Book of Book) などと呼ばれている。

人類に及ぼした聖書の影響ははかりしれない程であるが，世界中，ことに西洋に与えたその影響は，幾分なりとも理解されるのである。霊的とか，文化ということは，抽象的な面があるので，はっきりと評価しがたい。聖書は数千年もの間諸大陸の人々の考えや行動に大いに影響したという結論くらいが可能なところであろう。この影響は言語，文学，芸術，音楽，法律，組織体，慣習，表現形式，あるいは娯楽の面にさえ明らかになっている。すなわち，社会全体に及んでいるのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会のワードティーチング・メッセージの1961年3月号には次のように書いてある。

「聖書が人間に与えた影響には，いかなる本も及ばない。何百という国語に訳され，あらゆる国で配布されている。

聖書は人間の心のもっとも高いあこがれを満たし，神の存在を確かにする……。

キリスト教，現代社会，そして西欧文明の骨組の基礎は実に聖書である。

しかし，その影響をもっとも強く受けたのは人間自身であった。教養と洗練の最高の理念はこの聖書に発する。最高の画家や音楽家たちは，聖書を題材として，すぐれた作品を生みだした。聖書はどんな本にもまさって人々をより高い善へと導いてきた。聖書の明らかな教えに従うために，気高い人々は道の限りを極め，生活を律したのであった。

「聖書の言葉は望みの本質である。読む人の心に信仰をうちたて，絶望にうちひしがれた時も，喜びのさなかも，必ず，人の心に平安を与えるのである。」

聖書に根ざす三つの宗教がある。ユダヤ教，キリスト教，回教である。必ずしも聖書のみにかぎるということではなく，はなれているかも知れないが，その教義や儀式，行事の面で聖書の影響力は大きい。

注目すべきことは，聖書を生んだ民は，これしか人類の文化に寄与するものがなかったということである。ギリシャ人は，哲学，絵画，彫刻，そして，言語を多く後世に伝え，ローマ人は，法律，政治，行政，絵画，彫刻，音楽，言語の面において世を益したのであるが，イスラエルは，これらすべてにおいて現代に強く影響している聖書を生んだものの，その美術，彫刻，音楽，言語，文学のいずれにおいても，聖書が書かれた当時は見るべきものに乏しかったのである。とはいえ，これはイスラエルの価値を低くするものではなく，かえって，その使命を明確にし，その精神の源を明らかにしているのである。

他民族が，音楽，美術，文学などの芸術によって神の真理を具体的に表現する方法を発達させて行ったのであるが，その火を最初にともしたのは，聖書を書きしるした，選ばれた僕に神が与え給うた霊感と精神である。神の啓示はイスラエルの源であり，かつ，人類の生活にその使命を植えつけたものであった。(Ⅱニーファイ 29：4)

イスラエル世界での使命は霊的なものであり，イスラエルの予言者や使徒たちは霊的な器であった。異邦人諸民族は霊的なおとずれを絵画彫刻などの具体的な形に表現したが，イスラエルがそのような表現型式を避けてむしろ社会科学や音楽，文学などへの傾向を示しているのは，あそらく偶像の製作や礼拝を禁じる律法の故であったのであろう。

聖書の最大の影響は人間の霊においてである。そこでは，神の霊が人の霊に語り給い，そこから文化的な面が生まれてきたのであった。とはいえ，人間の霊性は全くはかりがたいものであって，ただ行動という外的な面に表われてはじめてとらえられるものである。従って聖書がどの程度，人の態度や生活を変えたかは，にわかには判断しがたい。幾人の心が聖書の言葉にひそかに想いをめぐらしては，変えられ，なぐ

的 霊 的 影 響

さめられ，そして幸せになったか，どんなこの世の本にも記し得ないからである。

芸術作品に対する聖書の影響について，ヘンリー・バンダイクは次のように言っている。

もし聖書に基づく思想，情緒，想像から生れた全芸術作品を消し去ることが可能だとしたら，例えば，ドナテロのダビデ，ミケランジェロのモーセの如き彫刻，ラファエルの聖母像やミユリロの聖家族のような絵画，バッハの受難曲やヘンデルの救世主などの音楽，ダンテの神曲やミルトンの失楽園という詩など全てを取り去ってしまうならば，世界は何と貧しいものとなってしまうことであろうか。これに，無限の聖譚曲カンタータ，絵画，彫刻，霊歌，讃美歌，聖歌，などの，価値がいつまでも変らない芸術作品がみな加わるのである。

聖書中の人物や事件はあらゆる本に直接，あるいは間接に表われてくる。地理，歴史，政治，自然科学などに関連のあることが聖書に書かれていることはよく研究されている。

新聞，その他，宗教に関係のない刊行物も劇的効果をねらうとき，聖書の表現を用いることがある。

文学と同じく，映画界にも聖書の影響がみられる。多くの会社が学校やセミナリー（一種の宗教学校）などで使用できる映画を製作すると共に，多数の娯楽用の映画が聖書の中から主題や題名をとっている。

たとえば，「偉大な生涯の物語」「十戒」「聖書」「十字架のしるし」「キングオブキングズ」「クオバディス」「ダビデとベテシエバ」「ルツ物語」「サムソンとデリラ」「聖衣」「サロメ」「バラバ」その他特に聖書を描く目的を持たないものも多数ある。

聖書はまた，日常話にも強い影響を与え，聖書から出た言葉をいたるところで耳にする。それは聖書がもっと親しまれた昔の一時期に，この言葉の多くが用いられるようになり，今日に到ったものであろう。しかし，出典が判らずにその意味も失われてしまい，今日，特に深い意味も語源も判らぬまま，日常用いる人が多くなったのであろう。

その上，聖書から出たと思われるが，直接の引用ではない言葉も日常多く用いられている。例えば「悪人には平安なく」は，イザヤ書48：22の「悪しきものには平安あることなく」が源であろうし，「小鳥は告げぬ」という詩は，伝道の書10：20の「そらの鳥…そのことを布るべければなり」から出たものであろうか。

聖書に基づく姓名は無数で，あまりにも知られているので特に例を挙げることは不要であろう。昔，ある時代に聖書の中の名をつける事を守る一群の人々がおり，息子にアブラハムでなく異邦人の名である「クロード」という名前をつけた男を，カルビンが投獄したとさえ伝えられている。

現在の法制は幾分ローマ的構成ではあるが，精神はヘブライ的である。英米の法律の多くはモーセの律法に基づいている。法廷で証人は聖書に手をおいて，真実をのべる宣誓をし公共の職務に就任する際も，多く聖書に手をおいて宣誓するならわしがある。

普通の会社でもよく，「聖書によって誓う」とか「聖書にかけて」などということをよく聞く。（訳者注：以上の事は英語国民の場合で，日本語にはこのような表現はない）

コロンブスは，新大陸に関すると思われる聖書の語句を集めて，「予言の書」をつくったと言われており，米大陸諸島への四度目の航海のために，1501年9月13日これを完成した。彼はフェルディナンド王とイガブラ女王の助力を乞う時幾度も自分の探検に関係あると信じたこれらの聖句を聖書から引用したのであった。彼には，特にイザヤ書が役立った。彼自身の書いたものや話によると，新大陸の発見は神に召された使命と信じていた事が明らかであり，故に心から真面目に聖書の予言を用いたのであった。

清教徒らが新大陸へ来たのは，聖書にしたがって，自分たちの信念のままに神を礼拝する望みの故でもあった。

以上みてきたように，聖書は幾世紀にもわたって，宗教上であると否とを問わず，各地の人々の心に多大の文化的影響を与えてきた。それは吾人の知る以上に強い影響を与える貴重な宝であり，民族の遺産でもある。幾千年も，何百万人もの霊的な必要を助け，末永く存続し，ひろく用いられる聖書の事実は，まことに神から出たものであり，その中心人物，イエス・キリストが，まさに全地の神にましますことを，証しするものである。

両親の皆さんへ

管理監督　ジョン H. バンデンバーグ

かつてある人がライ麦の網の目のようになった根や毛根の長さを計ったところ387マイルもあることを見つけました。比較的単純なライ麦がそのように広範囲にひろがった根をもっているのは興味深いことです。

単純な植物であるにもかかわらず，ライ麦は強さの源である根をしっかりと地につけています。こういう質問が出てきます。私達の子供達は人生の霊的真価にどれだけしっかりと根ざしているでしょうか。子供達が今日の世の中の嵐に対抗できるように私達は子供達に霊的な「根」を準備してきたでしょうか。もし両親が子供達を助けないなら，子供達はけっしてその霊的な強さを養えないでしょう。

建設的なものであってもなくても，両親から与えられる影響のように生き生きと決定的に青年の人生に影響をあたえるものは他にありません。実に子供はその家庭や両親の鏡なのです。マハトマ・ガンジーは「私の人生は私のメッセージそのものです」といいました。この言葉は両親にとってもまた真理であります。両親の喜びや，問題，目標，信仰，哲学，全てが子供に影響するのです。D・L・ロウはこのことについて次のように表わしています。

「もし子供がいつも批判をするなら，そうすることを教わっているのです」

「もし子供が敵意をもって生活していたら，争うことを教わって成長したのです」

「もし子供がおどおどと振舞うなら，懸念することを教わっているのです」

「もし子供が残念な気持をもって生活しているなら，自分自身後悔するように教わっています」

「もし子供があざ笑って生活するなら，ひやかすことを教わっているのです」

「もし子供がねたみをもって生活しているなら，欠点ばかりを感じるように教わっているに違いありません」

「もし子供が寛容な生活をするなら，忍耐することを教わっているのです」

「もし子供が勇気をもって生活しているなら，自信をもつことを教わっているのです」

「もし子供が（神を）讃美する生活をしているなら，感謝することを教わっています」

「もし子供が喜んで生活しているなら，自分で喜びを見い出すことを教わっています」

「もし子供がよく認識して生活しているなら，目標をもつように教わっているに違いありません」

「もし子供が正直に生活しているなら，何が正しいかを教わっているのです」

「もし子供が安心して生活しているなら，自分と他人も信頼するように教わっています」

「もし子供が友情あふれる生活をしているなら，この世界が生活するのに愛すべき場所であることを教わっているのです」

「もし子供が喜んで受け入れる生活をしているなら，愛することを学んでいます」

両親達は将来の子供の人となりを大部分形づくります。子供達が青年期になり独立できるようになった時，両親からそれらの教えをよく教えられたか，なおざりにされていたか，その家庭のしつけを鏡に写すようにはっきりと映し出すことを両親は知ることでしょう。私達が注意を向けなければならないのはアロン神権の若い兄弟達，ＭＩＡの若い姉妹達です。生気あふれる年頃，多くのたいへんな問題を抱えこんでいる年頃，人生の進むべき道を決意しなければならない年頃

……いかなる成功も家庭の失敗を償うことは出来ない……

多くの誘惑のあるこの年頃の人たちなのです。

両親が息子や娘に特別の関心をいだいているという事を理解する必要があるのはこれらの年代です。そしてこの年頃の青年は自分達はもう独立できるのだと主張しだしますが，まだよい訓練や具体的な規則や教育を一人一人必要としています。これらの具体的な規則は個々の成長に必要であって，もっと力を入れる必要があります。このことはある公共機関紙の欄に出された次のような手紙によって示されます。「私は17才の女の子です。うちの人達は私がなにをしようと，注意を払ってくれません。親がいないのと同じです。いつ，誰れと，どこに行こうと気にしないのです。いままで何も尋ねられたことがありません……。」十代の人たちはみんな従っていく規則を必要と感じています。誰れかが本当に心配しているのだということを感じたいのです。

若い人々は自分達の従っていく道を示してくれるよう両親に望んでいます。主は両親の期待と同じ期待をお持ちになっていらっしゃいます。このことについての主のお考えはイスラエルの祭司であった昔のエリになさったことによって説明できるでしょう。エリは強情な息子達を正しく導くことに失敗しました。そのために主から強い譴責を受けたのでした。「その時主はサムエルに言われた『見よ，わたしはイスラエルのうちに一つの事をする。それを聞くものはみな，耳が二つとも鳴るであろう。その日には，わたしがかつて，エリの家について話したことをはじめから終りまでことごとく，エリに行なうであろう。わたしはエリに彼が知っている悪事のゆえに，その家を永久に罰することを告げる。その子らが神をけがしているのに，彼がそれをとめなかったからである。それゆえ，わたしは，エリの家に誓う。エリの家の悪は犠牲や供え物をもってしても永久にあがなわれないであろう」（サムエル上3：11～14）

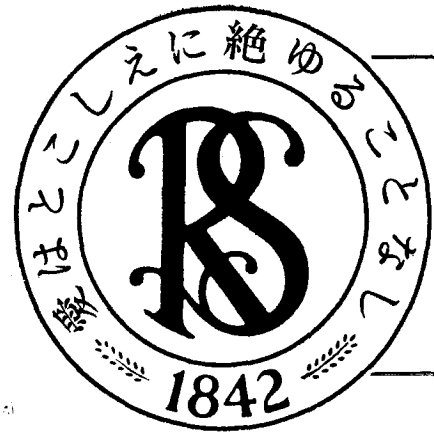
世界各国の人々は家庭における指導やしつけが欠けているために，悩んでいます。最近アメリカの国立犯罪委員会は大統領に青年が犯す罪の動機のほとんどは明らかに親の罪であると報告しました。この委員会の報告は次のように述べられています。「子供達が触れる大部分の社会団体，例えば，学校，教会，公共機関や青年組織のプログラムや活動は，子供達が自分の家庭で人生に対処する基本的な態度と道徳的な標準を学んでいると仮定して，行われています……。

貧しい人々の間でも裕福な人々の間でも，町や都市や近郊のいたるところで見られる現象は，親の，特に父親の子供達に対する権威が徐々に弱まっていることです。」

青年達の罪を減少させて，道徳的な強さと高い理想をもって青年時代をうち建てる方法は，国家の助成によって行われるプログラムよりもむしろ一人一人の親が親としての一番大切な役割を果すことです。主のみ教えに従い家庭に戻って大切な役割を果さなくてはならない両親があります。予言者デビド・O・マッケイ大管長は「いかなる成功も家庭の失敗を償うことは出来ない」と語られています。この言葉は引用するよりも信じて実行する必要があります。両親が最も良い家庭をつくるために，「家庭の夕べ」は良い道具です。啓示によるこの計画なしではその家庭は将来に開けている進歩を充分にとげることができません。両親が子供達を教え導く責任はアダムの時代から私達に与えられています。予言者は昔のイスラエルの人々に次のように助言を与えています。

「これを子供達に教え，家に座している時も，道を歩く時も寝る時も，起きる時も，それについて語り」（申命11：19）

これは新しいことではないかもしれません。しかし現代にとってはさらに必要な助言なのです。



扶助協会……

すばらしい発見

リンダ　ラッド

私がはじめて，扶助協会に出席したのは，一年ほど前のことでした。それは活潑な教会員で私の友人であったお隣りの人の勧めによるものでした。私は教会の婦人とは「合わない」し，扶助協会を病人や困っている人のために果物をカゴにつめるだけの会としか考えておりませんでした。この言葉から，私が教会員ではなかったことがおわかりでしょう。今もまだバプテスマを受けておりませんが，もうすぐ受けたいと思います。

私は扶助協会に始めて出席して，次のことに気づきました。つまり姉妹たちは本当の友だち，仲間として結ばれており，もっと大切なことはその精神は天父から与えられたものであるということです。

そうしているうちに，私はその集会にいつも出席するようになりました。すると，私の生活に不思議なことが起ってきました。前にはついぞ考えたこともないようなことに，思いをめぐらし始めたのです。私はもともと家事にはほとんど関心がありませんでした。料理をしたり，縫物をしたり，特に家の中をきれいにするのが嫌いでした。夫がおいしい料理やきれいな家を好むということも別に気になりませんでした。私は生れつき，そのようなことが肌にあわず，夫も仕方がないとあきらめておりました。

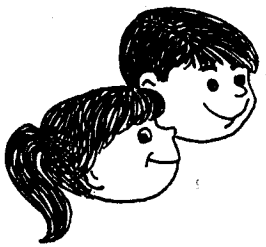
しかし，扶助協会のレッスンや実例を学んでいるうちに，思いがけないほどの変化が私に起ったのです。

ある日，一人の姉妹が50セントで買った古いコートを作りなおしているのをみました。既製服が出まわっている今の時代にそんなことをするなんて，と始めは思っておりました。しかし家に帰って，集会で見たりきいたりしたことを考えているうちに，私も縫ってみようかしらと思いついたのです。さっそく材料を買って，復活祭のために赤ちゃんの着物やコートを作りました。私でも自分のこの手で何か役に立つものが作れるのだとわかったときの感激は，とても口にはあらわせるものではありません。今まで自分にこのような誇りを感じたことはありませんし，夫にそのコートをみせたときに彼の目に浮かんだ驚きと感嘆を決して忘れることはないでしょう。

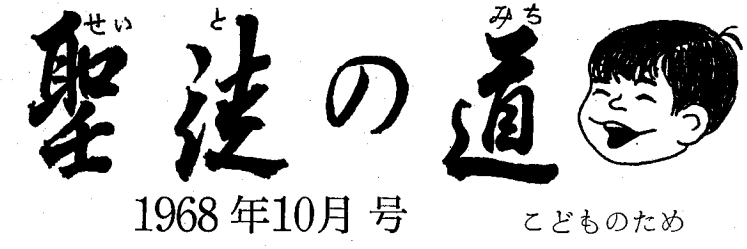
また別の集会で，家で作る食物の貯蔵や罐詰について話し合いました。驚いたことにそこでは，近代的できちんとした服装の教養のある婦人たちが古くさい罐詰について語っているのです。はじめそんなことは私にむいていないと思っておりましたが，その話を聞けば聞くほど，自分の計画で食物の貯蔵をやってみたくなりました。このとき罐詰は作りませんでしたが，40本のビン詰ジャムを作り，それが不思議なことにちゃんとできたのです。来年はほんとうに罐詰を作って，家事の才能を磨きたいと思います。

残念ながら，まだ家をきれいにするのが好きではありませんが，このむずかしくてつらい仕事をやり遂げて，自分の家に誇りを持つようになろうと努力しております。なぜなら，自分の家に誇りをもてばもつほど，夫が私のことをかなり誇りに思っていることがわかったからです。扶助協会のおかげで，このようなことができて生活も豊かになりました。毎週そこに行き，女性が女性らしくなるために，母親が母親らしくなるために，妻が妻らしくなるために学び毎日の生活にそれを応用しているのを見ていると，このようなすばらしい計画に参加できたことを深く天父に感謝せずにはおられません。

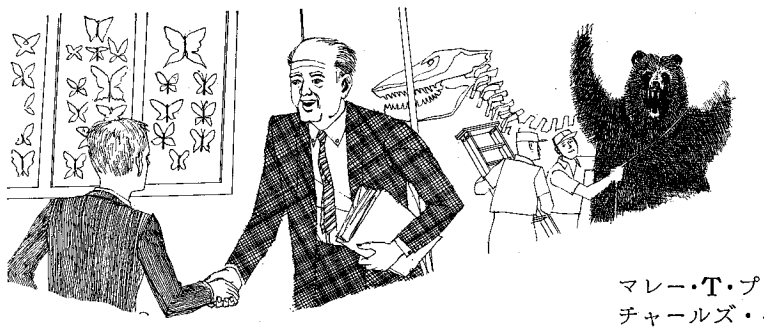
神のみこころのままに，その計画の一端をになうには，最初に扶助協会の活動から始めたいと思っております。福音や教会の活動を学んだために，私の生活はたいへん豊かなものとなりました。そして扶助協会の姉妹たちとの生活で学ぶ理解と忍耐は家庭生活にも反映します。道は遠く，学ぶこともたくさんありますが，このすばらしい教会と組織に参加しながらそれを始めたいと思っております。



聖徒の道



1968年10月号　　こどものため



マレー・T・プリングル作
チャールズ・キルター絵

ちょうちょどろぼうのひみつ

第一章

ダニー・カレンズはブリクストンの町の少年たちの中ではじぶんが一ばんのしあわせものだと考えていました。

ダニーにはそう考えるだけのとってもよい理由が二つあるのです。

今は夏休みだということと，仕事があるということです。それはただの仕事ではなく，やってみたいなあと思っていた仕事でした。彼は博物館の中ではたらくのです。

ダニーは大きくなったら博物学者になる決心をしていたので，できるだけたくさんのことを勉強して，じっさいに経験したいと思いました。お父さんとお母さんは，これはとてもよい考えだと思っていました。

ダニーの仕事は博物館にきそうされたちょうちょを標本にするためのじゅんびをすることでした。カーステアズさんは言いました。

「この仕事は時間と忍耐が必要です。じきに退屈になって外へ遊びに行きたくなるかもしれない。早く仕事をかたづけたいと思ってそまつにあつかうと必ずしっぱいします。『急がばまわれ』です。ダニー，それでも仕事がしたいですか」

「はい，やりたいです。ほんとうに気をつけてやります。ぼくはずっと前から博物館か動物園ではたらきたいと思っていました。それに学校で，ちょうの標本をつくったことがあるのです」

「そのことなら，知っています」，カーステアズさんはほほえみました。

「君の手紙をうけとってから，学校にといあわせたら，先生はあなたが良い生徒だとおっしゃったので，君にはたらいてもらうことにしました。ふつうなら十六歳にならない人はとらないのです。もしたいくつになったらすぐ仕事をやめて，したくなるまで家にかえるか友だちとあそんできなさい。夏中に仕事をおえればよいのですか

たえなくてはなりません。そのことをよく考えて，あとで，午後にでもまた私にあいにいらっしゃい。」ピーターはうなずきました。それはもう知っていることでした。彼はウィリアムズおばあさんを大へん愛していたので今日の午後プレゼントをもって行くつもりでした。そしてグリーンおばさんも大すきだったので，彼はまた行って，もっといっぱいおかしができるように，ねったこなをのばすおてつだいをしたかったのです。昼食のあとピーターはウィリアムズおばさんのために，クレヨンで一ばんりっぱなえをかきました。彼はお母さんに〝野生の馬〟というだいをかしてもらいました。なぜならピーターは馬がだいすきだったからです。それから，彼はその絵をもってウィリアムズおばあさんのところへもどって行きました。ウィリアムズおばあさんは彼を見てあの大きなやさしい顔一ぱいにほほえみをうかべました。

「ぼくおばあさんがだいすきだから，絵をもってきました。」とピーターがいいました。「私もあなたがだいすきですからおかしをやいてあげました。さあ召し上がれ」とウィリアムズおばあさんは言いました。

ピーターは食べられるだけ食べました。ウィリアムズおばあさんは，馬がだいすきですから「野生の馬」の絵は家の中で一番よい絵ですと言いました。それからピーターは，つたでおおわれた家へと出かけました。グリーンおばあさんはピーターに手をさしのべていいました。「またきてくださいほんとうにありがとう。」

「おばあさんがだいすきですから，もっとおてつだいがしたいのです。」とピーターが言いました。「なんてやさしいのでしょう。おかしをやくとき，私はいつもてつだいがひつようです。はじめる前にピーターに小さなプレゼントをあげましょう。」とグリーンおばさんがいいました。

そしてピーターを彼女のへやにあるはこのところへつれて行きました。「このおもちゃは，私のむすこがちょうどピーターのとしごろにつかったものです。どれでもすきなものをえらんでおとりなさい。」

はこはおもちゃで一ぱいのようでした。ピーターはきいろのはしごが一本なくなっているふるいあかいしょうぼうのトラックがいちばんきにいりました。それから彼はグリーンおばさんといっしょにこなをのばしておかしのかたちを切りぬきました。

ピーターがとおりがかったら，まだグレゴリーおじさんがベランダのいすにこしかけていました。彼はたちよって，グレゴリーおじさんにあかいしょうぼうのトラックをみせて，どんなにたくさんのおかしをたべたかを話しました。

「ピーターはきっと二人のすばらしいおばあさんをもっているんだね。」とグレゴリーおじいさんがいいました。

「そう。ぼく二人ともだいすきなんだ。けれども，みんなこんがらがっているんだ。ぼく，プレゼントもらったりおかしをつくってくれたりすることなんてそんなにかまわないんだよ。だけど，そうしてくれたんだ。ぼくにプレゼントをくれると思っていたおばあさまが，おかしをつくってくれたり，おかしのおばあさまはプレゼントをくれたんだ。」とピーターはにやにやしながら言いました。

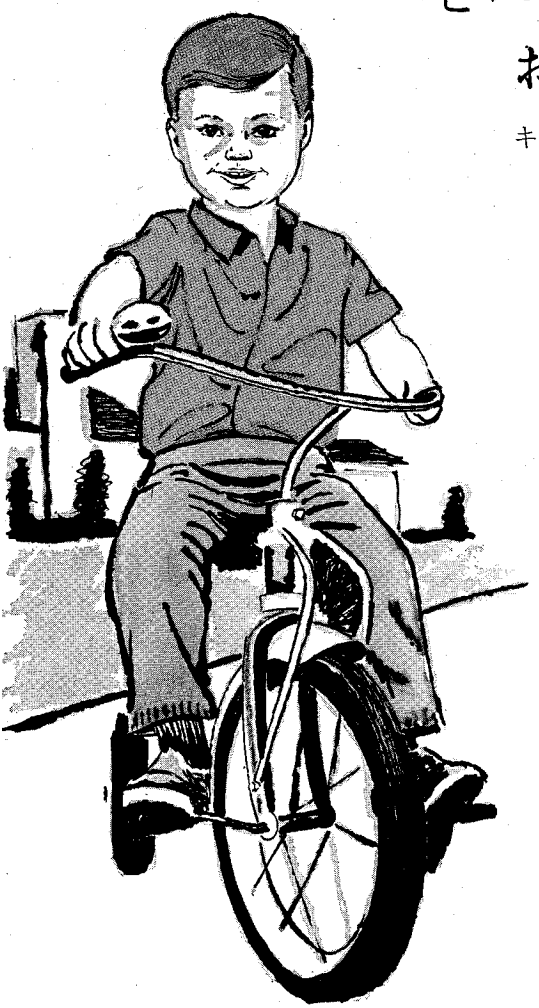
グレゴリーおじいさんはおなかがいたくなるほどわらいました。そして彼は，「そのとおりだよ。もう一人こんがらかったおばあさんがほしかったら，私がそれになってお話をしてあげましょう。男の子に話さなくてはならないお話がたくさんあるのだよ。さあ，私のそばにこしかけなさい。むかし，むかし，あるところにね……。」

ら，いつするかは君のじゆうです」
「いつから始めてよいですか？」
「そうだね。明日の午後の二時はどうかね」
それからの一日はとても長く感じられましたが，やっと新しい仕事を始める時がやって来ました。ダニーはメイン街を急ぎながら店の時計を見ました。ちょうど一時三十分でした。ダニーはおくれないようにと気をもみながら，博物館のあるエバ・パークに通じるメープル通りをわたりました。
「おーい！，ダニー」「まってくれよ！」
ふりむくと自転車にのっている男の子と女の子がいました。ダニーの学校の同級生のパット・パタソンと妹のパムでした。
「だめなんだよ！　仕事におくれるから」とダニーはこたえました。
自てん車を引いていた少年と少女は自てん車にのってダニーを追いかけました。
「仕事だって？　もう仕事がみつかったの？　どこなの？」とパットが自てん車でそばにやってききました。
「博物館だよ」それからどんな仕事なのか二人に話しました。
「いいなあ！」とパットはうらやましそうに言いました。「君といっしょに行って，はくせいにするのを見ていてもいいかい」
「ちょうちょは，はくせいになんかしないよ。標本にするんだよ」とダニーはうんざりしたように言いました。
「わかった。わかったよ」とパットはからかいながらにやにやしていました。「いっしょに行っていいだろう？　ぼくたちだって手つだいくらいはできるよ。」
ダニーは頭を横にふって言いました。
「さいしょの日だから，だれもつれて行かないほうがいいと思うけれど……カーステアズさんがよく思わないかもしれないから……。ぼく，しばらく仕事をしてから，たのんでみてもいいよ。」
パム・パタソンはひとこともしゃべりませんでした。女の子としてはめずらしいことだとダニーは思いました。まだたったの十一歳でしたが，何か言わなくてはならない時，たいていもののわかったような顔をしていました。それもめずらしいことでした。ダニーはパムがすきでした。
「それならしかたがない。君一人であの古ぼけたちょうちょをつめてはくせいにすればいい！」パットはおこったようにそう言ってから，手をふって，自てん車にのってしまいました。
「さようなうダニー！」とパムは始めて口を聞きました。「またあいましょうね。」
ダニーは走り出して，まもなく，正面入口に通じる広い石の階段にきました。
ダニーが入ったら，ちょうどカーステアズさんにあいました。
「やあ！　一ばん新しい従業員が来た！　時間も正確だ。ダニー，始めからよい心がけだ。待って下さいね。」ろうかのつきあたりにあるドアをあけてカーステアズさんは，ダニーを中へ入れました。「ダニーこれが君の事務所ですよ」と言いました。
「君の事務所」という言葉は，ダニーにとってとてもいみあり気にきこえました。じぶんの事務所！ダニーは部屋の中を見まわしました。へやはやや小さくて，その中にある家具は一方のかべにそっている大きな仕事台とぐるぐるまわるすわりごこちのよさそうな皮のいすだけでした。大きなまどからは公園が見おろせます。公園の中の小さな池には数匹のあひるが泳いでいるのが見えます。「こわれもの。取りあつかい注意」というレッテルのついた大きなボール箱がたくさん，部屋の三つのかべに高くつみ上げられていました。
「その箱にちょうちょが入っているのですか？」と，ききました。

い人でした。ピーターの家から少しはなれたところに，つたでおおわれた家がありました。そこにはグリーンさんがすんでいました。彼女は売るためクッキーやケーキをつくっていました。そこでピーターは彼女はおかしをくれるおばあさんとしてぴったりだと思いました。でもピーターは話をしてくれたり，本をよんでくれるおばあさんを一人も知りませんでした。彼はおかしやプレゼントよりお話のほうがずっと好きでしたので，あるはれた日にピーターは三輪車にのって，三人のおばあさんをたずねました。はじめにあのりっぱな家へ行きました。ウィリアムズさんはドアをあけて，ピーターににっこりとほほえみかけました。彼女はいつもにこにこした大きな人で，おばあさんとしてはちょうどよい人でした。
「ぼく，一人もおばあさんがいないのです。ぼくのおばあさまになってくれませんか？」とピーターはききました。
「ピーターありがとう。もちろん，あなたのおばあさんになってあげますよ。ピーターおはいり」ピーターは一じかんもいて，ウィリアムズさんととてもたのしくあそんだり，わらったりしたので，少しもプレゼントのことなどかんがえませんでした。
つぎに，ピーターは三輪車にのって，つたでおおわれた小さな家へ行きました。ピーターがノックをしたら，グリーンさんはおかしを一ぱいもっていたので，かた手でドアをあけなくてはなりませんでした。あまーい，いいにおいが家の中にただよっていました。ピーターはたのしそうににおいをかいでいました。
「グリーンおばあさま，ぼくにはおばあさんが一人しかいないのです。もう一人のぼくのおばあさまになってくれますか？」とピーターはききました。「まあ，ピーター，よろこんであなたのおばあさんになりましょう。私の小さなまごたちはとてもとおいところにいますから。さあだいどころのほうへいらっしゃい…」
だいどころにはおいしいものが一ぱいありました。ケーキをつくるためのこなもおいてありました。
「このねったこなをのばしてみない？」とグリーンさんが言いました。
ピーターがたいらにのばしているあいだに，グリーンさんはかわいいこびとのかたちを切りぬいて，それをやいてくれました。ピーターは一時間もいました。おかしのこなをたいらにのばすのがとてもおもしろかったので，彼は，ほかのことはなにもかんがえませんでした。ピーターはお昼ごはんをたべに家に帰るとちゅう三輪車をとめて，ベランダのひあたりのいいところでいすにこしかけていたグレゴリーおじいさんとはなしをしました。グレゴリーおじいさんの髪は白く，かおにはしわがありましたが，すんだ青いめはあかるくてこうふくそうでした。「おはようピーターくん！きょうはどうしたんだね…」とグレゴリーおじさんがききました。
「おばあさんをさがしているのです」とピーターはこたえました。とてもいいおばあさまが二人見つかったのだけど，ぼくもう一人ほしいんだ」「それはまた，ずいぶんおおぜいのおばあさんだね」グレゴリーおじいさんはクスクスわらいました。「どんなおばあさんをさがしているんだね」
「あのう…ひとりはプレゼントをくれるおばあさま，もうひとりはおかしをつくってくれるおばあさま，そしてもうひとりはぼくにおはなしをしてくれるおばあさまなんだよ。」とピーターはこたえました。
「ピーターくん，おばあさまというものはあいをあたえるのがおもなことです。しかし，あの人たちがあたえる愛以上に君があ

ピーターのおばあさんたち

キャサリン・W・モーズリー作



ピーターにはお母さんとお父さんとハーマンという小犬と，そして三輪車とおもちゃのダンプ・カーとジルという名前の金魚がありました。でも彼にはおばあさんが一人もいなかったのです。ピーターのたいていのお友だちには二人のおばあさんがいました。ピーターはおばあさんってとてもすばらしいものだと思っていました。ときどき本をよんでくれたりおかしを作ってくれたり，プレゼントをくれたりするおばあさん。ピーターは二人のおばあさんがこんなによいものなら，三人いたらもっとずばらしいだろうなあと思いました。それは一人のおばあさんがおかしをつくって，一人のおばあさんがプレゼントをくれて，もう一人は話をしてくれるというように。ある日ピーターはお父さんとお母さんにおばあさんがほしいとたのみました。するとお母さんもお父さんもとてもかなしそうな顔をしました。そこでピーターは自分でおばあさんをさがそうと思いました。ピーターの家のすぐそばにりっぱな家があり，そこにウィリアムズさんがすんでいました。彼女はプレゼントのおばあさんとしてちょうどい

カーステアズさんはうなずきました。「そうだよ。博物館に寄贈されたコレクションです。アルファベットのじゅんばんでやったほうがよいと思います。アルブライトさんがあつめたものから始めましょう。マクスウェル・アルブライトさんは何年もかかって，がとちょうをさいしゅうしました。たしかに，ダニー君より時さい時から始められたと思うよ。六ケ月前にアルブライトさんが亡くなった時，あつめた半分をここに，そして半分をクレストピューの博物館にきそうされたのです。」館長は一つの箱を仕事台のところへよせてそれをあけました。中には何百という小さな紙のふうとうがつまっていて，その一つ一つにちょうが入っていました。

「アーッ！」ダニーはびつくりしました。「百万もあるだろうなあ！」

カーステアズさんはまんぞくげにわらいました。「百万とはないが，そうだね，一万から一万五千でしょうね。何しろ，君をとうぶんいそがしくさせておくくらいの数はありますね。」

「そんなにたくさんあってどうするのですか？」とダニーはききました。

「それはね，一部はこの博物館でてんじし一部は学校のしぜんじっしゅうやそのほかのかつ動のためにかし出します。あとはここにない見本をほかの博物館とこうかんするためにつかいます。それでは，どのようにするか教えましょう。」

館長が行ってしまってから，ダニーはまず山のようにつんであるふうとうから始めました。しゅるい，形，大きさや色のちがうこんちゅうがいろいろ入っていました。ダニーがブリクストンふきんでみかけるものはいくつかありましたが，ほとんどは今まで見たことのないものばかりでした。

ダニーはゆっくり，ちゅういぶかくふうとうからちょうを一つとり出しました。そしてカーステアズさんから教えられたとおりに，絵かきのつかう筆をコップに入っている水にひたして，そっとちょうをしめしました。見本のいくつかは長い間保管されていたのでもろくなっていました。ダニーは一つを水でしめしてから，標本にできるようにちゅういぶかく羽をひろげました。それからかわかすためにとくべつな台の上にのせて，それをべつのところにおいてつぎのにとりかかりました。とても細かい仕事で，急いではできないものでした。

ダニーは，時のたつのもわすれて，むちゅうで仕事をしていたので，かべの時計をみるともう五時十五分でした。

ダニーは台の上にでき上ったちょうを見て数えると，二十七ありました。あまりたくさんではなかったのですが，むずかしい仕事だったので，とてもちゅういぶかく，かんぜんにやりました。

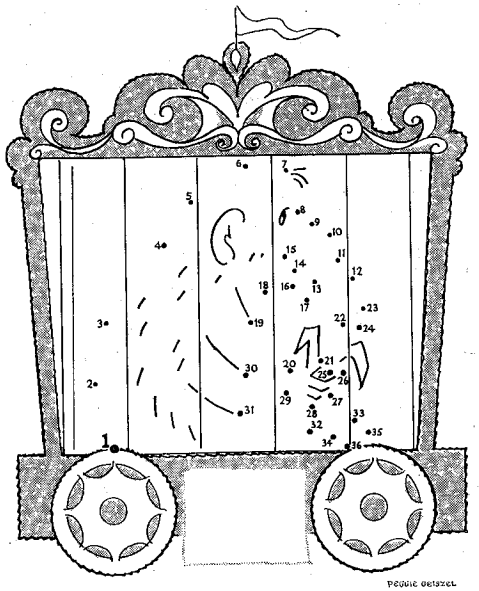
ダニーはほうきとゴミとりをさがして，きれいにはくつもりでした。カーステアズさんからあとかたづけはそうじのおばさんがやるときかされましたが，ダニーは自分がちらかしたところは，人にさせないで自分でかたづけるようにとひごろ教えられていました。きれいにかたづけるのに十五分かかると思いました。そうすればちょうど夕食が始まるまでに家に帰れるのでした。

家に帰るとちゅう，ダニーはつかれたようにため息をつきました。彼はつかれていましたが，しあわせな気持ちでした。博物館ではたらくことはおもしろくてすきですし，夏中そこにいられるのですから。

しかしダニーは，まもなく，ちょうちょと，ふしぎな「モルフィー」と，とてもきみょうなものをぬすんだはん人にかかわる思いがけないじけんにまきこまれるとは，ゆめにも思っていませんでした。（つづく）

動物にえさを やりましょう

ペギー・ギーゼル作



てんをばんごうじゅんにむすんでかくれているどうぶつをさがしだしましょう。

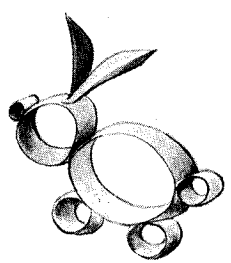
ほそながいかみきれで, どうぶつえんをつくりましょう

アンジェル・シューレン作

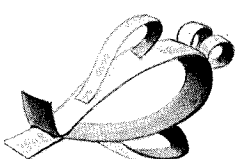
いろのついたかみ一まいを2.5センチ×30センチ または1.5センチ×25センチのながさになんまいかきります。一まいをからだにつかい，はんぶんをあたまかあしにつかいます。のりをうすくのばしてつけます。かたまりをつくったり，はみだしたりしないようにしましょう。わのりょうはしをのりであわせて，かわくまでちょっとのあいだゆびでおさえています。そして，あしやあたまやうでのちいさいわをのりでからだにつけると，かみのどうぶつができあがります。

りすをつくるときは，ねことおなじほうほうでつくってください。しっぽとみみさえかえれば，りすができます。

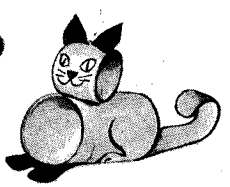
りす



うさぎ



さかな



ねこ

ふつうのおとこの子

グレース・ウールヘザー作

まことはどうぶつの本のさいごのページをめくり。あのようなふしぎなどうぶつになってみたらおもしろいだろうとおもいました。

まことは本をたなの上において，だいどころへいくと，お母さんがちょうどおかしのびんにできたてのクッキーを一ぱい入れているところでした。「とても小さなクッキーだから，手につかめるだけもっていってもいいですよ」とお母さんがいいました。

しかし，まことはあまりたくさんつかめませんでした。「たこだったらいいのになあ」といいました。「そうしたら八ぽんの手でクッキーを一ぱいもつことができるのに……」

まことはお母さんにありがとうといって，そとへあそびにいきました。

お父さんこまどりがリンゴの木の上でうたっていました。ちかくにすがありました。お母さんこまどりのあたまのてっぺんもみえました。きれいなあおいたまごの上にすわっていたのでしょうか。たまごはいくつあるのでしょうか。

「キリンのようなながいくびがあったらすの中までみられるのになあ……」とまことはいいました。

やがてお母さんのよぶこえがきこえました。「まこと！いらっしゃい。あたらしいくつをかいにいきましょう」とお母さんがいいました。くつやさんでまことはなんそくもはいてみました。しかしお母さんは「一そくだけですよ」といいました。

「むかでだったら，ぼく五十そくもはけるのに…！」とまことはいいました。

まことはその中から一そくをえらんで，お母さんといえへかえりました。

いえについてから，まことははこからあたらしいくつをとりだしました。かわはなめらかで，ピカピカひかっていました。それでもお父さんのくつずみでみがこうとおもいました。まことはいっしょうけんめいこすったり，ふいたりしてみがきました。すると，あたらしいくつはもっとよくひかりました。まことはすっかりつかれてしまいました。

「ぼく，むかでなくてよかった」とまことはいいました。「五十足もみがかなくてはならないんだもの！」

「手をあらっていらっしゃいね」とお母さんがいいました。

まことはせんめんじょにいってかがみをのぞきました。するとくびのところにくろいくつずみがついているのがみえました。つよくこすってやっととれました。

「キリンでなくてよかった。ながいながいくびをあらわなくてはならないんだもの…。」とまことはいいました。

まことは手をごしごしあらいました「たこでなくてよかった。八ぽんも手をあらうなんて…。ふつうのおとこの子のほうがずっとずっとたのしいよ」といいました。

（文中の名前は日本名にしました）

忘れることの効用

シルビア　プロブスト　ヤング

先週のある晩，隣りのお宅に立ち寄りましたところ，84歳で白髪ですが元気な老婦人がシナモン・ロール（シナモンの入ったパン）を作っておりました。甘くて芳ばしい香りが立ちこめている台所で老婦人が満足そうに粉をねっているのを見ていると，歳月とともに更に円満になっていく人柄が，とてもうらやましく思われました。まもなく，いっしょにベランダに座って，焼きたてのおいしいパンを食べたり，金色に輝いている空をみたりしながら，彼女がいつも楽しくしている秘訣は何かとたずねてみました。

老婦人はちょっと考えて，次のようにおっしゃいました。「幸福になるのには，忘れることが大切だと思います。心を傷つけるようなことは，なるべく覚えていないで忘れることにしたんですよ。」

それ以来，何度もこの言葉を考えているうちに，この言葉のもつ意味がどんなにすばらしいかがわかってきました。私たちが愛している人の怒った言葉や恩知らずで考えの浅いことなどを忘れないでいることはとてもやさしいことです。また，まちがった非難や不親切な注意などを覚えていて，それをだんだん重大なものにしていくのも簡単なことです。

とても仲のよい二人の婦人が，ちょっとしたことを忘れないでいたために，おたがいに長い間，口もきかないですごしました。そして一人が死んでから，他の一人は始めてあんなに美しくすばらしかった友情がみにくい悲しいものに変っていたのに気づきました。ただ，どちらか一人が，忘れることをしなかったからなのです。

「許すが，忘れはしない」とよく人はいいます。しかし，許すということは忘れることなのですから，まちがいを忘れなければ，真に許したことにはなりません。

人間はまちがいを犯すものです。私たちはみんな人間だということを理解して，他の人のまちがいをすぐに許すことはできないものでしょうか。どんな人でもつらいことを覚えていて，幸福になることはできません。なぜなら，つらいことと幸福とはおたがいに水と油のようにあいいれないからです。

この賢い老婦人は，みにくいものは避けて，美しいものだけを見てきました。ですからあんなに円満で，そばにいるだけで楽しくなるのでしょう。私はこの老婦人からすばらしい教訓を学びましたので，ぜひ自分の生活にも応用したいと思います。そのようにしているうちに，主の僕としてはさらにふさわしい者になれると確信しております。

日曜学校

教えるとは ただ語る だけのことか

ライマン C. ベレット

かなり前，二人の兄弟が道を横切るとき，弟が道の途中で兄の手をふり切って飛び出したため，走ってきた自動車にひかれて即死してしまった。心なくも両親は弟の死の責任を兄に押しつけたので，すでにショックを強く受けている彼の心の重荷は堪えられないほどであった。そのため少年は孤独の殻にひきこもってしまい，遂には家庭でも学校でも手がつけられない少年となってしまった。

学校の教職員たちは少年のひどい態度をみて退学させるぞとおどかしたりしたが，誰一人少年にいうことをきかせる者がいなかった。しかし，非常に理解のある教会の教師(女性)の力がこの少年の孤独の殻を破ったのであった。心からの愛と関心を示しながら，教師は少年の問題の原因を除々に理解していった。このようにして教師は少年の信頼を得ているうちに，少年の学校では彼の退学について最後の相談が行われようとした。学校のカウンセラーは少年に遅すぎないうちに少年を信頼して助けてくれる人がいないかどうか尋ねた。少年はすぐ教会の教師の名をあげ，教師がその相談にくることになった。教会の教師は少年の悩みを説明したので，学校の教職員はそれをよく理解し，少年は退学されずに済んだ。

このできごとより強調される点は教師が生徒の名前を知るだけではなく，生徒の人柄やその性格にもとずく日常生活などを深く知る必要があるということである。その教師は少年に何かやってあげることによって愛を示した。教師は少年のことをよく心配し，愛して，教室で行われることだけよりもより多くのものを与えたのであった。

大部分の教師は教室で自分の思想を述べるが，若い人の価値に関しての思想は次の2項にあらわされよう。

1.「実存主義（主義にとらわれないで本来の自己に立帰ろうという思想）では，人間はもともと無に等しいものであり，現在も将来も無きに等しい存在なのである」（トルーマン・G・マジセン著「永遠の人」28ページ）

2．地球上の人々は神の息子，娘であり，人々の中には神々に高められる力がひそんでいるのである（教義と聖約76：24参照）

多分，教会の教師で1項を文字通り信じている人はまずいないと思われるが，そうかといって2項を全面的に信じている教師がすべてではない。文字通り信じていない教師は「そんなことは，私が語っていることとは関係がないよ。かれらはとにかく何かいたずらしてレッスンが終るのを待っているだけだよ」という態度をとっている。

心理学者は愛に関する救い主の偉大な教えがいかに大切かを立証している。救い主の伝道の間に人々に与えられたもので最も注意をひいた唯一の誡命は愛に関することであった（ヨハネ13：34〜35 や マタイ22：34〜40参照)。心理学者，ルイス・P・ソープは次のように書いている。「人間にとって最も必要なことは……自分の要求を満足させるためには計画して始めるよう個人個人にやる気を起こさせることである。人間の性質はこれらの要求とそれを満足させることからきまってくるといえよう。……従って次の3つの望みが人間の行動の基本となる。

1. 幸福でいたいという望み
2. 人々から尊敬され大切な人として認められたいという望み
3. 人々から守られ，愛され，慰められたいという望み」（ルイス・P・ソープ著「心の健康心理学」39〜40ページ）

あなたがたはなぜ生徒がある人々だけを好きになったり，よく協力したり，信頼したり，熱中したりするのか不思議に思ったことはないだろうか。人々がこのように仲よくなったりするのはその人たちに愛を示そうとしているからである。教師の場合はどうか。教師は生徒を愛していると言うことは大切であるが，それよりも生徒と一緒に熱中したり，元気ずけたり，賞めたり，認めたりして感化することが必要である。

生徒を真に愛している教師は生徒の生活と活動の中に入りこむようになる。生徒は彼らの仲間が賞をもらったことがわかると同時に教師の心からのお祝いもきくことであろう。また誕生日だとわかれば教師からカードが送られたり，電話を

かけられたり，特別のもてなしを受けたりするであろう。生徒を真に愛している教師は生徒の生活から孤立した存在にはならないであろう。ゲームやコーラスやバンドやドラマをやった生徒には必ず「よくやったね」という言葉がかけられ，教師がいつも生徒のことを気にかけており関心をもっていることがわかるであろう。

教師が生徒に自分の愛を示すにはたくさんの方法がある。たとえば教会の標準に従って生きるよう，またいつも礼儀正しくあるよう，法律を守り正しい模範を行うよう，最善をつくすことに喜びを感ずるよう元気づけることなどである。このようにしてレッスンを補強する方法はいくらでもある。生徒たちは教会の標準を守っていれば決してひとりぼっちではないし，馬鹿でものろまでもないことを知らせる必要がある。教師は生徒の努力に対して心からの関心を示して励ますことができる。教師が生徒たちを正しく認識していないと生徒からやる気を奪うことになる。生徒がその着物や行いや態度や出席において模範的なものがあってそれを教師が褒めてやれば，生徒はどんなにか元気になり模範的な態度をもち続けたいと思うことであろうか。なぜなら生徒の行動はあらかじめ教師から認めてもらっているからである。

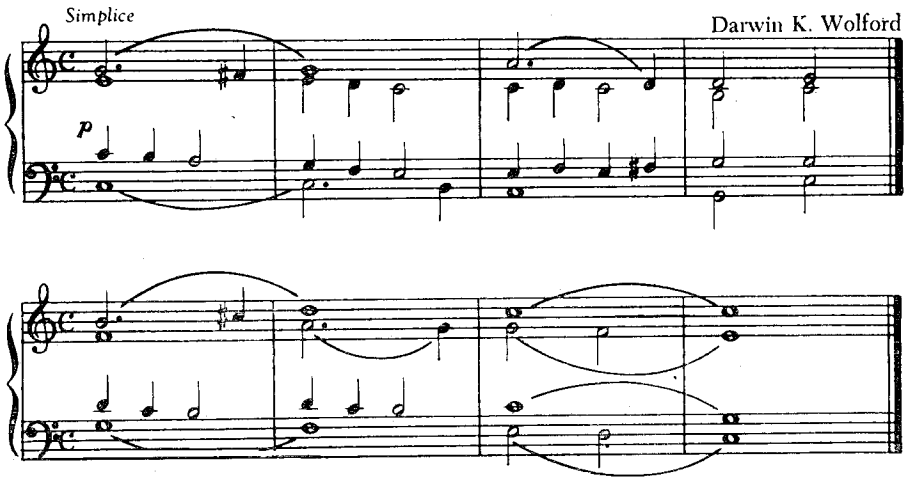
よく生徒が次のようなことを言っているのを耳にする。「誰がそんなこと気にするというのだ。前にそんなことなんか僕もやったけど誰もありがとうと言ってくれなかったよ」。人に感謝することは生徒を愛している教師が決して忘れてはならない大切なものである。単なる「ありがとう」という言葉は老いも若きにも同様に効果がある。それには感謝の言葉以上のものが含まれているのであって，その人が関心をもたれ，気にかけられ，元気づけられることを意味している。

生徒を愛している教師は教えるとは語るだけのことではないことを知っている。生徒は行動することによって学ぶのであるから，愛する生徒にとって行動するということは欠くことのできないものである。

すなわちその行動とは生徒自身がすべきものと，他の人にやってもらうべきものとがある。それには生徒に教会の標準を守って生活するよう元気づけたり，奉仕する機会を与えたり，かれらがやっていることを理解したりかれらが大事な人であることを皆から認められており，また神に高められる力も持っている神の子供であることを表わしたり，教師がかれらのことをいつも気にかけていることを知らせることが大切になるのである。

救い主はペテロに言われた。「あなたはわたしを愛するか」。ペテロは言った，「わたしがあなたを愛することは，あなたがご存じです」。そうすると救い主はペテロに「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。3回主はペテロに私を愛しているかとたずねられ，3回ともペテロは主を愛していると答えた。そしてその度ごとに主はペテロに何かを行うようすなわち小羊を養うように言われた（ヨハネ21：15〜17参照）。

教会の教師は生徒たちのために何かを行うとすればそれはかれらを愛することであり，かれらを愛するためにはかれらのために何かをしなければならないのである。



10 月 の 聖 句

大人日曜学校

「そこで私ニーファイは，私の父に『私は主が命じたもうたことを行って行う。私は，主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである』と言った」　（Ⅰニーファイ3:7）

子供日曜学校

「あなたがためいめいも，もし心から兄弟をゆるさないならば，わたしの天の父もまたあなたがたに対して，そのようになさるであろう」

（マタイ18：35）

それは誰れにでも起る

メアリー　ケンワージー

ジェームスは車庫に車を入れたがそこでちょっと坐った。彼の精神状態はまだ直ぐに家に入って両親に会える状態ではなかった。色々な事があまりにも短期間の内に起ったのでまず自分自身でゆっくりと考える余裕が必要だった。

夏，家から離れている間にジェームスに重要な事が起ったのである。これは彼自身全く予期せぬ事だった。ジェームスはこれをどうやって両親に理解させたらよいかわからなかった。これまでの彼の生き方はいい加減だったが現在はちがう。

ベッキーは素晴らしい少女だった。ジェームスは彼女を愛していたに違いない。だが先週土曜日の夜起った事はこの愛とは何も関係がなかった。これは今まで彼が知らなかった不思議な力，強烈な力だった。いや，それをベッキーのせいと思う事は出来なかった。おそらくあの様な状態だったら誰れであっても起り得た事だった。以前彼はあの様な多勢の人々からあの様な影響をうけた事がなかった。あの人達は自分が今まで受けてきた人生観よりはるかに多くの事を教えてくれた。ジェームスはあの人達が持つ考え方を自分も持ちたいと思った。しかし彼は両親や自分の属する教会の教えについて考えると不安な気持で一杯になった。あれやこれやと考えている中に，彼は段々と事の次第をはっきりと思い出して来た。

彼はある会社のパーティでベッキーに会った。彼はベッキーをとても素晴らしい女の子だと思った。それまで彼はこの事に気が付かずに，彼女とパーティなどのデイトを重ねていた。ジェームスはパーティに魅せられてしまった。パーティに出席していた人々は皆親切で，彼を喜んで受け入れてくれた。彼は彼らのもよおす他の活動にも参加したいと願った。彼らがとても親切だったからである。ジェームスの考え方は除々にだが，着実にこのグループの人々の考え方に導かれて行った。そしてある土曜日の夜の事，全く避けられない事が起きた。

だが彼はその時非常に幸せだった。それにもかかわらずこの状態はどうしたのだろう。

ジェームスは家に入る前にお祈りしようと思いついた。お祈りの言葉はぎこちなかった。

「神よ，家族の者が私をわかってくれますように……」

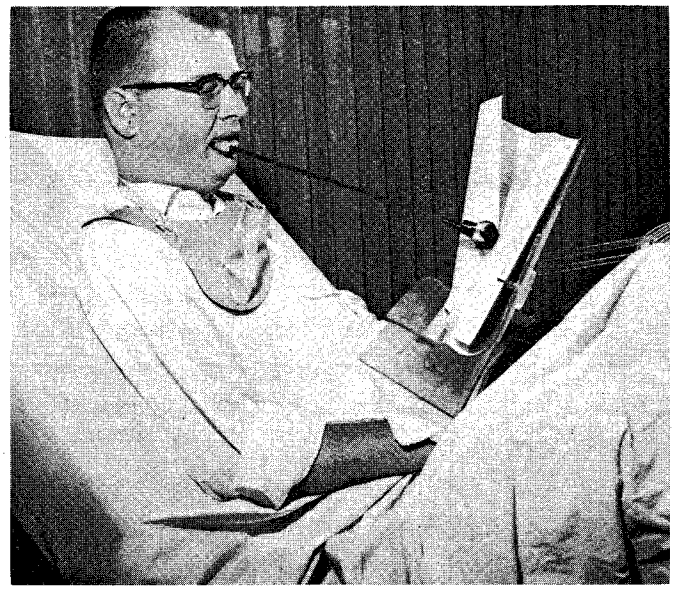
すると彼に新しい勇気がわいて来た。なすべき事をしてしまうと決心を変えるわけにはいかなかった。ここまで来て決心を変える心要はなかった。

彼は車から降りて家に駆け込んだ。家族にあいさつをしてから話し始めたが目に涙があふれて来た。

「お母さん，お父さん，僕がして来た事を話して理解していただけるかどうか判りませんが，実は今まで教わって来たことにさからうことになってしまうんです。でも，それはよく考えた末にした事なんです。僕はモルモンのバプテスマを受けました。」

精錬の火

マリオン・ベンチ



ドゥウェインは法律書や教会の書物を勉強する時に，先にゴムの付いた棒をくわえて本のページをめくる。

ドゥウェイン・シュデクムの37年の生涯に多くの福音の教えが美しく説明される。彼の生涯はともすれば多くの人が自暴自棄となってしまうような不具に見舞われながら優れた業績を残したユニークな生涯である。

ドゥウェインは15年前首から下，全身に麻痺障害を起して以来不具と闘って来たが，その間教会で四つの責任を果して来た。定員会教師，求道者クラスの教師，福音の教義クラスの教師（5年間），そしてサンジェゴ・イースト・ステーキ部，エル・ケヨン第3ワード部の日曜学校副会長などの責任である。彼はこれらの召しをいつも心よく受けて来た。

また麻痺障害を起した後弁護士を開業した。彼はそのためサンジェゴの夜間大学で法律を四年間専攻し，二年前の六月に優秀な成績で卒業した。彼のクラス・メートの一人はクラス全員がドゥウェインに非常な賞讃をおくったことを思い出すと言っている。

彼は一年前，カリフォルニア州で弁護士試験にパスし開業を認可された。この試験に合格するのは容易でなかったが，彼は自分に肉体的欠陥があるからといって特別な考慮を受けたわけではなかった。この試験の合格率は受験者の59％以下という厳しいものであった。こうして彼は法律事務所を開設したのである。

その14年前，ドゥウェインは自信にあふれた新婚早々の海軍パイロットだった。彼の前途は大海の如く洋々と開けていた。兵役を終えてから彼は学校を出て仕事に就いたが，その二年後彼は小児麻痺と闘わねばならない身となった。麻痺は少しずつ彼の肉体を侵して行った。彼は死の恐怖にさらされるという堪えがたい苦悩に直面した。

今や何を頼りにすべきだろうか。彼と妻のエメラルドは信仰と勇気と悟りを確かにするというチャレンジを与えられた。エメラルドは病院で療養する不具者の中には人生の目的を持たないがために死んでしまう例がしばしばあった事を思い出す。この点ドゥウェインは恵まれた事に永遠の前進を教える素晴しい末日聖徒の教義の中に生き，これが彼を生かしたと言っている。

行為と態度

我々は行為を見て人を判断する。なぜなら行為はその人の重要な一部だからである。行為は態度によって決まる。

ドゥウェインは「我々は自分のためにも他人のためにも我

々の最善を尽くして学び行う義務がある」と信じる。法律を学び教会の優れた働き手となろうとする彼の希望と計画からその思想を知ることが出来る。

ドゥウェインは優秀な頭脳と強い決断力を持ち合せたが，不具のために多くの障害に会った。帰還軍人本部では彼が不具なために業を続ける事が出来ないと判断して学資金を援助出来ないと通告したが，彼は，二，三の授業を無事にやり遂げたら法律学校進学に対する証明書を出してくれる様に事務所に再検討を要請した。彼は勉強し始めた。勉強の習慣は簡単だった。ただ陰ひなたなくいつも勉強するだけだった。在学中の彼の日課は，朝早く起きて妻が娘を学校に送り出す前に勉強し，次いで身体を洗い，ひげをそり，朝食をとる。そして昼まで勉強し，昼食後少し休んで再び勉強する。晴れた日の午後はたまには中庭へ出て休むこともあった。

ドゥウェインの在学中，家族の人達は広いホールと入口，階段の代わりになめの坂をつくったりして彼の不自由さを軽くした。ドゥウェインの寝室にはちょっと見ると床屋の椅子の様に見える特製の振動ベッドがあるが，これは彼の横隔膜が麻痺した状態にあって自力で呼吸するのが難しいためこの機械で身体を振動させ筋肉を刺激させて肺に空気を送るための装置である。このため彼が呼吸する時には空気吸入の音が他人に聞き取れる程だが，話をするには差しつかえない。睡眠中楽に呼吸出来る様に夜の間もそれを振動させて置く。

勉強をする時には，身体と腕を支えるトレイを前部に設けその上に本を乗せて口にはページをめくるゴム付きの棒をくわえる。

彼はそのようにして考え，顔をほころばせながら，すばやく解答を出す。彼がモーター付きの椅子に乗って家の中を追っかけ廻す様子を話す時，妻のエメラルドの顔は喜びに満ちている。

15年にわたる教会の教師としての経験から彼は次の様に自分の教授方法を述べている。

1）まず教えようとする内容について調べ，これについてのアウト・ライン（概略）を準備し，それに沿って教える重要な点については記憶に頼らず論理的に準備検討しなくてはならない。記憶にばかり頼ると内容は深みの無い味気ないものになり勝ちだが，アウト・ラインを準備すれば誤った記憶によって話す心配がないばかりか，クラスでの時間を無駄に使うこともなくなる。

2）彼はクラスで教える準備に毎週最低2時間を費す。普通先生というものは豊富な知識を持っているけれど，これればかりに頼るべきでない。

3）彼は論理的な表現こそ大人らしいものだと考えてそのために努める。

4）各レッスンにキー・ポイントを作る。普通各レッスンに二つ以上のポイントがあるとレッスン効果が半減してしまうからである。

5）彼は祈りをもってクラスに入る。「教会でお祈りなしで教えることの出来る人は一人もいない。私はこれを確信を持って言う事が出来る」と彼は言う。

6）ディスカッションを行う場合は自発的な発言を待たずに会員に呼び掛けては発言を求める。

7）彼は柔軟性に富んでいて時々問題を別の角度から検討する事もある。

「私が教えていて非常に印象に残る事が一つあります。私達は多かれ少かれ霊感を感じるし，霊感なくして福音を教えることが出来ないということです。霊感は祈りを通じて受けられるものです」と彼は言う。

彼は必要な時他人に助けてもらう。例えば，長老の数を数える際長老の一人が記録をとる。

シュデクム家族の車は油圧のジャッキを備えているが，彼はこれで自分の体を押上げて車に乗る。このために彼も自分の体にフリ革をつけている。

この一家は「落胆」と云う言葉を数年前から使わないようにした。ドゥウェインは言う。「自分はただ何か役に立つ事をしたいと思うだけです」と。

彼の妻はこう言っている。「人が病気になるのはただ一つ精神的な理由だけです。ドゥウェインは普通の精神状態を維持することが出来たんです。これには彼の人格とユーモアのセンスが加わっていますが……」

彼は毎日「勇気」を実証している。この「勇気」とは，障害にもかかわらず最善を尽す意志である。また彼は「信仰」を実証している。この「信仰」とは，努力を通じてほとんど不可能なことを成し遂げることである。彼は「福音を自分にとりいれること」を日々実証している。それは将来を決定する健全な態度である。

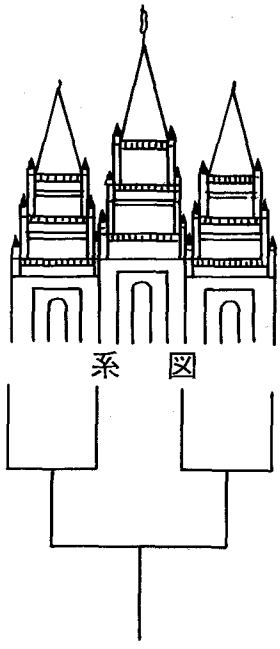
サンジェゴ・イースト・ステーキ部長のJ・クリフォード・ワラス氏は「ひどい障害はしばしば絶望をもたらすものだがまた丁度精練所の火の様にこれを通る人は素晴らしい人となるものです。

ドゥウェインを襲った麻痺についても同じ事が言えます。私は彼が病気になる前から彼を知っており，彼が病気になった夜に世話をし，その後ずっと彼の勇敢な闘病生活と再起を見てきました。今は彼の親友であり隣人でもあります。

生活の仕方，知恵，他人が自分を必要としているという意識が彼の中に育って来ました。私が彼の福音のクラスに出席する時そのことが一番良くわかります。

クラスの生徒は，彼がいつも神の善と回復が真であることを確固として証しする時に，自分に与えられるチャレンジを学ぶのです。

問題は，自分が本来どういう立場にあるかを判断出来ることである。彼の妻はこれも次の様に指摘している。「この世の生活は全ての進歩のごく一部にしかすぎません」シュデクム一家は，イエス・キリストの福音が幸福をもたらし逆境に打ち勝たせる人生の道であることを発見したのである。」



霊　界

1年以上にわたって，聖徒達が系図を集めて，各自の全家族が結び合わされる必要のある事を強調してきました。私達は教会の会員達の深い信仰と，この価値ある仕事をなしとげたいという望みを知ってうれしく思っています。

ここで何について話そうかと熟考していると，第六代大管長ジョセフ・F・スミスの言葉が心に浮んできました。次に彼が聖徒達に説教した霊感あふれる話の中から一つを引用しましょう。

「1968年10月3日，私は自室にこもって，聖典におもいをいたし，この世の救いのために，神の御子がなされた偉大な贖罪の犠牲，贖い主を世につかわしたもうた御父と御子の大いなる驚嘆すべき愛，そして御子の贖罪と福音の教えに従順に従うこととによって，人類が救われ得ることなどについて熟考していた。こうしているうちに私は使徒ペテロが初期の聖徒達にあてた書簡を思い起こした。

私は，聖書を開いてペテロ第一の手紙三章と四章を読み始めたが，読んでいくに従って次の章句に関して，以前感じた事のないほどに大きな感動を覚えた。

「キリストも，あなたがたを神に近づけようとして，自らは義なるかたなのに不義なる人々のために，ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし，肉においては殺されたが，霊においては生かされたのである。こうして彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは，むかしノアの箱舟が造られていた間，神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み，水を経て救われたのはわずかに八名だけであった。」（Ⅰペテロ３：18～20）

「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは，彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが，霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ⅰペテロ４：６）

書き記されていることを熟考していた時，理解の目が開けて主の「みたま」が私にとどまった。私は大いなる者や小さい者の死者の群れを見た。そして肉に在った間にイエスの証詞に忠実であった義しい霊たちが一つ所に無数に集まっていた。これらの者は神の御子の大いなる贖罪に似た犠牲を払い贖い主の御名を引きうけて苦難をうけた人々であった。これらすべての霊達は，天父なる神とその独り子イエス・キリストとの恵みによって栄えある復活の望みを固く保ってこの世を去った霊であった。

彼らが歓喜に満ちて解放される日の近いことを共に喜び，神の御子が霊界を訪れて死の縄目からの贖いを宣べ伝えられるのをいっしょに待ちかねているのを，私は見た。骨は己が骨にかえり，筋肉と肉とはそれにつき，眠れるちりはその形をすべてもどして完き喜びを受けるために，彼らの霊と肉体はもはや分かたれないように結合されねばならなかった。

おびただしい数の義人たちが死の鎖をとかれる時の来たことを喜んで話しあっていると，神の御子が現われて，忠実であったとらわれ人に自由を叫び，彼らに永遠の福音，復活と全人類にわたる堕落よりの贖い，悔い改めによる個人の罪の贖いの教義を宣べられた。しかし御子は悪人のところへ行かず，主の御声は肉に在った時に自らを汚して神を恐れずに悔い改めないでいる者たちの間にもあげられなかった。古代の予言者らの証詞と警告を否んだ不従順な者たちも，御子の御声を聞かず御姿を見ずその面を仰がなかった。

彼らは暗やみに支配されていたが，正しい人々の間には平安があった。聖徒たちは贖いを喜んで，死と地獄の鎖から解

放して下さった贖い主，神の御子を知ってひざまづいた。主の御前から輝き出る光は彼らをおおって，人々の顔は輝きに満ち，彼らは聖なる御名に讃美をうたった。

主は真理を拒んだ不従順な者や悪人たちの間に行ってお教えにならないことを知った。しかし主が義人の中から御自分の軍勢を組織して使いを指名なさり，彼らに力と権威を与えて，あらゆる人の霊のところへ福音の光をたずさえて行くようにとお命じになるのを私は見た。こうして死者に福音が宣べ伝えられた。そして選ばれた使いたちは，主の受け入れられる日を宣べ伝え，とらわれている人々に解放を叫ぶために自らの罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての人々のもとへ出て行った。こうして，真理の知識なく罪あるままに死んだ者や，予言者を拒んで罪のうちに死んだ人々に福音が宣べ伝えられた。彼らは，神への信仰，罪からの悔い改め，罪の許しをうけるための身代りのバプテスマ，按手礼による聖霊の賜物，および，彼らが肉にあっては人によって裁かれても霊にあっては神によって生かされる者となるために知らねばならぬ福音の原則をみな教えられた。

そのようにして小さき者にも大いなる者にも，忠実なる者にも不義なる者にも，十字架の上での神の御子の犠牲によって贖いの及ぶことが知らされた。肉に在って主を証しした忠実な予言者たちの霊が，反逆と罪ゆえに主御自身と接することのできない死者たちのところへ贖いのおとずれを伝えて，彼らもしもべの導きと恵みを通して主の御言葉を聞くようにと，霊界におられた贖い主がしもべたちに教えをたもうて準備をなさったことが知らされた。

この偉大にして力ある数多くの義人の群の中には，最も老いたる者，すべての父，父祖アダムと，真の生ける神を拝して信仰あつく生きた代々の娘たちを従えて，栄光に満ちた母なるイブもいた。最初の殉教者アベルや，父アダムに生きうつしで力ある者，その兄弟のセツもいた。洪水を警告したノア，大祭司セム，信仰の父アブラハム，イサク，ヤコブ，イスラエルに偉大な律法を伝えたモーセ，そして，へりくだる人々を受け入れ，とらわれ人に解放を叫んでかせの下にある人々に扉を開きたもう救い主が油をそそがれたことを予言したイザヤも，そこにいた。

さらに示現で生者と死者の復活の時に再び肉を着る枯れた骨の谷を見せられたエゼキエル，末の日に建てられてもはや滅ぼされることも他の民に侵されることもない神の，王国を予見して語ったダニエル，変ぼうの山でモーセと共にあらわれたエライヤス，モロナイが予言者ジョセフ・スミスに語ったと同じく，主の大いなる恐るべき日の来る前に，エライジャが訪れることを証しした予言者マラキもそこにいた。

予言者エライジャは，主の来られる日に全地がのろいをもってことごとく撃たれることのないように死者を贖い子孫を先祖に結び固めるため，時満ちたる神権の時代に，主の神殿でなされる偉大なみわざを先見して，先祖になされた約束をその子孫の心に植えつけるという使命を持っていた。

彼らをまじえてずっと多くの霊たちが集まっており，ニーファイ人の間に住み，来たるべき神の御子を証しした予言者たちさえもその中にいて解放されるのを待ち望んでいた。なぜなら死者は長い間自分の霊が肉体から離れていることを束縛と考えるからである。主は彼らに教えたまい，御父の王国に入って不死不滅と永遠の生命の冠をいただき，そこで主に約束された働きを続けて，主を愛する者に用意されているすべての祝福にあずかるよう，主の復活の後に墓よりいで来る能力を彼らに与えたもうた。

時満ちた時代にいで行き，神殿を建て，死者の救いの儀式をふくむ末日の大いなる業の基いをすえる働きにたずさわるためにとっておかれた。予言者ジョセフ・スミス，私の父ハイラム・スミス，ブリガム・ヤング，ジョン・テイラー，ウィルフォード・ウッドラフ，その他の選ばれた霊たちも霊界にいた。また高貴にして偉大なる霊たちの中に，はじめに教会の指導者となるべく選ばれた人々がいるのを見た。彼らは世に生まれる前，他の多くの人々と共に霊界において教えを受け，人の身と霊の救いのために主のぶどう園で働くよう命じられる時にいで行く備えをしていた。

私はこの神権時代の信仰深い長老たちが死ぬべき世を去った後に，死者の住む広い霊界で暗黒のうちに罪の重荷を負っている人々の間に行き，神の生みたもう独り子の犠牲による贖いと悔い改めの福音を説く業を続けるのを見た。悔い改めた死者は神の家の儀式に従順であることを通して償いを為すであろう。そして犯したとがの罰を償い終えた後，彼らは清く洗われてその働きに従って報いを受ける。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。

これが私に啓示された死者の救いに関する示現である。私はこれを記す。この記録が真実なことを私は知っている。それは，主なる救い主イエス・キリストの恵みによる。アーメン」（Gospel Doctrine 福音の教義 P. 597～601）

老いた漁夫

メアリー バーテルズ

私達の家はバルチモアにあるジョンズホプキンス病院の入口の前の通りをまっすぐ横切ったところにあった。私達は階下に住んで二階の部屋は診療所の外来患者に貸していた。

ある夏の夕方，私が夕食の準備をしていると，ドアをノックする音がした。ドアを開けるとそこには実に恐ろしい形相の老人がいた。

「まあ，この人は私の8歳の時の背とほとんど変わらないわ」私はその腰の曲がった，しわのよった老人を見てそう思った。

しかも彼の顔は赤く皮がむけてはれたものでいびつになり，ぞっとするような顔つきであった。

しかし，彼が次のように言った時その声は楽しそうだった。「おはようございます。私は一晩だけ泊まる部屋を探しに来たのです。私は今朝東の方にある海岸から治療を受けるために来たのです。そしてもう明日の朝までバスがないのです。」

彼は昼からずうっと部屋を探しているのだがまだ見つからないと話した。「それは私の顔のせいでしょう。私が恐ろしい顔をしていることは知っております。しかし，医者はもう少し治療が必要だと言うのです。」

一瞬私はためらったが次の言葉を聞いて納得した。「私は入口のところでこの揺り椅子で眠ることができます。バスは明日の朝早く発ちます。」

私は彼にベッドを探すからその間しばらく入口のところで休んでいるようにと言った。それから私は中に入り夕食をすませた。私達は用意ができてから，その老人に仲間に入らないかとたずねた。

「いいえ，結構です。私は沢山です」といって彼は茶色の紙袋をとりあげた。

私は皿を片付けてから数分間彼と話そうとして入口の方へ出ていった。その老人が小さな身体につめこむことのできないほどに大きな広い心を持っていることがすぐにわかった。

彼は娘や孫たちや，背中の傷から直る見込みもない不具になってしまった娘の夫の生活を支えるために魚をとっていたと語った。

彼はそのことを不平の口調では語らなかった。そのほかの言葉も神の恵みに対する感謝ではじまっていた。彼は自分の病気が全然苦痛を伴わないのを感謝していた。それは明らかに皮膚ガンの一種であったが，彼は生きていく強さを与えてくれた神に感謝していた。

就寝時に，私達は彼のために子供部屋に簡易ベッドをおいた。私が翌朝起きてみると，ベッドのリンネル敷布はきれいにたたんであって，その小さな老人は入口の外のところにいた。彼は朝食をことわったが，乗るバスが出発する直前，ためらいながら，大きな助けを求めるように言った。「この次治療で来なければならなくなったときまたここへ来てお邪魔してもよろしいでしょうか。あなたには少しも御迷惑はおかけしないつもりです。私は椅子でよく眠れます」彼はちょっと間をおいてからさらにつけ加えた。「あなたの子供さん達は私をくつろがせてくれました。大人たちは私の顔がいやなようでしたが，子供達は気にしていないようでした」私は彼がまた来たときも歓迎することを話した。そして彼がその次に来たのはそれから七日位たった朝であった。彼は贈物として，一匹の大きな魚と私がこれまで見たうちでいちばん大きなカキを一クオート持ってきてくれた。彼はその朝こちらへ来る直前にそのカキの殻を取ってきたばかりだからまだ新鮮でおいしいでしょうと言った。私は彼の乗ってきたバスは朝4時に発つことを知っていたので，殻を取るには何時に起きなければならなかったろうかと考えた。

数年間のうちに彼は何回かやって来て私たちと共に夜を過ごしたが，いつも魚やカキや自分の庭でとれた野菜などをもってきてくれた。

郵便で小包を受けとる時にはいつも速達便であった。魚やカキが葉をていねいに洗った新鮮なホウレンソウやキャベツの入った箱に入れて包装してあった。それを郵便に出すために彼は3マイルも歩かなければならないことや，彼がわずかのお金しかもっていないことを知ってから，その贈物は二倍の値うちのあるものになった。

これらの小さな思い出の品を受け取った時，彼が最初に来て翌朝去っていったときに私の家の隣の人が言っていたことをしばしば考えた。隣人はこう言った。「あなたは昨夜あのおそろしい顔をした人を泊めてやったのですか。私は追い払ってやりました。あのような人を泊めたりすると部屋を借りる人がなくなってしまいますよ」

おそらく一度か二度ほどそう言われたことがあった。しかし，彼らがあの老人をよく知っていたなら，そんなにも気に病むことはなかろうに。家族が彼を知ったことにいつも感謝しているのを私は知っている。私達は彼から，悪いことは不満を持たずに受け入れ，良いことは神に感謝して受けとることの何であるかを学んだ。

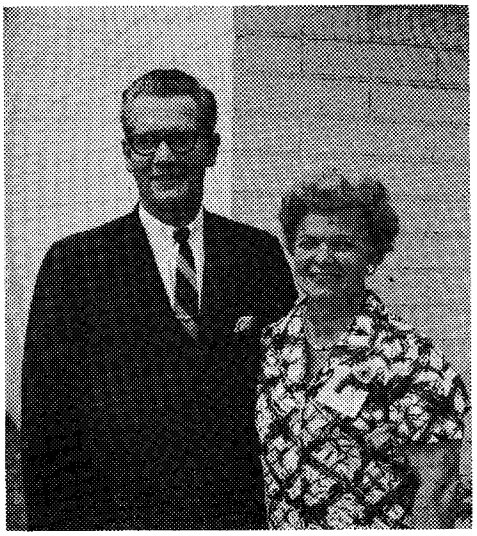
最近私は温室をもっている一人の友人を訪ねた。彼女が私にいろいろな花を見せてくれていたとき，私達はそのうちでもっとも美しい花の前に来た。花がまっ盛りの金色の菊だった。私がとても驚いたことには，それは古ぼけてへこみ，さびで腐りかけたバケツの中に育っていた。私はひとりで考えた。もしこの花が私のものだったら私はこれを一番きれいな容器に植えるだろうと。だが友人の言葉は私の気持を変えた。

「私は鉢をどれにしようかと少し考えました。そしてこの花がどんなに美しく咲くか知っていたので，この古いバケツに植えても苦にならないだろうと思ったのです。この花を庭に出せるようになるまでほんの少ししか経っていないのですよ」

彼女は，私がその時とても楽しそうに笑ったので，けげんに思ったにちがいない。だが私は天における次のような光景を想像していたのである。「ここに一つのひときわ美しい霊がある」と神はあの漁夫の霊のところに来て言ったにちがいない。「彼はこの小さな身体に入れても気にすまい」

しかしそれは現在のことではなく，ずっと前のことである。この美しい心を持つ人は神の庭でどんなに堂々と立つことであろう。

伝道部長メッセージ



日本伝道部長　ウォルター R. ビルス

愛する兄弟姉妹

私は姉妹と共に，大阪の西中央地方部大会と東京の東中央地方部大会に出席できましたことは非常な光栄であったと喜んでおります。

大会のスピリットを満喫し，皆さんのすばらしい証詞を聞いて，私達も強められました。

会衆の皆さんと会員たちの明るい笑顔を拝見した時，「ここにこそ教会の未来の指導者，日本の未来の指導者がいる」と感じました。これらの立派な若い方々は，すでにその能力を示されたように，真の指導者になるでしょう。しかし，全教会員の模範がなければそうなることはできません。若い人々の，両親や家族のほとんどは，まだ教会に入っておりません。全ての会員（特に教会の長老）がその家族を導くこと，すなわち相談に乗り，指示を与えることができるようになる必要がここにあるのであります。この実現のために，私たちはみなこぞって福音を実践し，研究し，説きすすめなければなりません。私たちは本当に世の光となる必要がありますが正しい模範によって必らずや世の光となるに違いありません。最近，あるかなり年配の方が福音を求めておられました。二人の宣教師は，この人こそ大切な人と確信したので，熱心に教会へ連れて行こうとしました。そしてもうじきバプテスマを受ける準備ができるところでした。ところがこの人と宣教師が教会に入ろうとしていた時に，二人の教会員が何か福音について議論をして，非常に声を張りあげていました。その求道者は何も言いませんでしたが，翌朝早く宣教師が戸口に彼の書きおきを見つけました。その人はもう来ないと書いてありました。宣教師が教えてくれたメッセージは彼がずっと探し求めていたものですが，教会員がその教えに従っていなければ残念ながらこれは彼にとって正しい教会ではないと言うのでした。言うまでもなく，長老たちはがっかりしました。そして，その人が戻って来るように祈っております。彼は真理を求めていました……私達は真理を知っているなら，それについて論争したり，声を荒立てて議論をしたりする必要はないのです。

真理が私達に平安と喜びをもたらす時に，世の人々は私達の人となりによって，私達が真理を持っていることを知るのであります。

教会の会員であることにおいては，世界の他のいかなる所でも，この日本においても，少しも変るところがありません。私達はみな天父の子供達であり，かって神と共に住み，自らの選びにより御子に従って更に進歩をするためにこの地上へやって来ました。イエス・キリストの福音はどこに住んでいようとも，誰れが教えられても，全く同じものであります。救い主がこの地上に来られる前に，誰れでもみな，この福音をいつかは聞かなければなりません。

多くの人達が来年神殿へ行く準備をしています。いつの日か，全ての人が，予言されたように日本の神殿に行く機会に恵まれるでしょう。しかし，神殿に入る前に，私達は生活を整えなければなりません。その時に天父と交わす聖約によりもたらされる恵みと祝福に備えなければなりません。

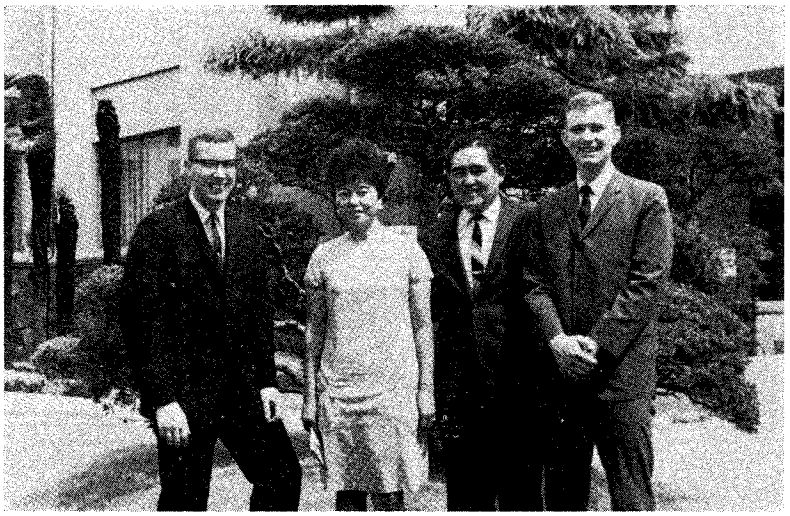
一致和合するところに力があります。私達はみな主の側に立って生きるべき道に生き，学ぶべきところに従って福音の神髄を学び，なすべき方法によりそれを説くならば，なし遂げられない事は何一つないのであります。

「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」

この人生一代で完全な生活をすることはほとんどできません。しかし，兄弟姉妹，私達の一人一人が，天父が完全であられるように完成へ向って大いに努力することを私は祈って止みません。

伝道部長メッセージ

日本沖縄伝道部長　エドワード　ユキオ　岡崎



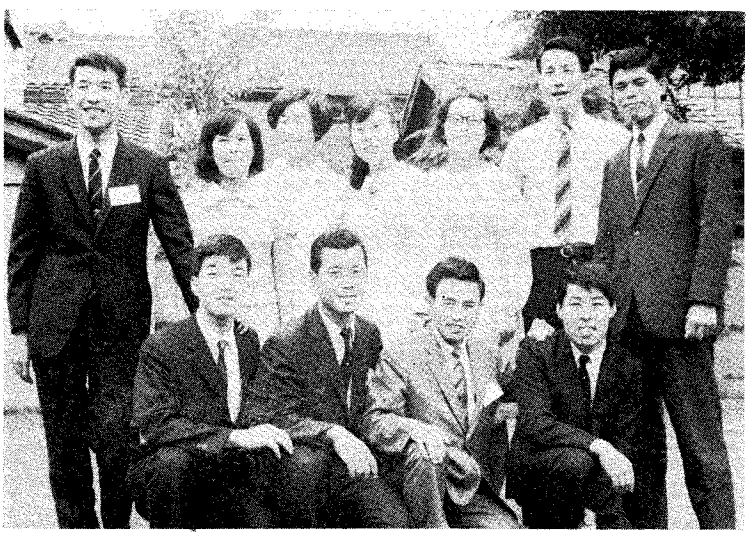
愛する兄弟姉妹のみなさま

私たちはこの美しい日本へ来ることができて本当にうれしく思います。強い信仰と証詞を持っておられる聖徒や宣教師の方々にお会いして，私たちは多くの励ましをいただきました。大阪や東京の空港に着いてみなさまの暖かい歓迎を受けた時以来，私たちの心は感謝と愛に満たされています。日本の人々は祝福された民であり，日本は祝福された土地であります。

新しく開かれた伝道部で働くことは，私たち家族一人一人に与えられたチャレンジであります。地方部や支部の指導者のみなさまに教え助けていただかねばなりません。みなさま方は親切に忍耐をもって私たちを助けて下さいました。みなさまへの感謝と愛をあらわす言葉もありません。私たちがみなさまをいかに愛しているか，イエス・キリストの福音をいかに愛しているかを，この後私たちの行ないによって知っていただきたいと願っております。

この日本が，イエス・キリストの福音に改宗した人々にとって最も大いなる国となるよう，みんないっしょに働きましょう。ただ聖徒と宣教師の努力を通してのみ，それが成し遂げられます。

私たちの天父の「みたま」がみなさま一人一人の上にありますように，そしてみなさまのご家庭の中に豊かに宿りますように……，それによって私たちが兄弟姉妹や日本のまだ福音を知らない人々に，いつも「モルモニズム」の幸福の光を与えることができますように……。



日本沖縄伝道部で働く日本人宣教師

後列左から
早坂長老　伊藤姉妹　島崎姉妹　雨宮姉妹
鷹野姉妹　本多長老　石坂長老

前列左から
青柳長老　内山長老　上野長老　伊藤長老

ウィリアム J. クリッチロウ Jr. 長老逝去さる

ウィリアム J. クリッチロウ Jr. 長老の一生を通じての信条はこの言葉によく表わされている。「幸福は奉仕の副産物です。」

彼は幸福に満ちた人であった。生きることを喜ぶその精神は，彼を知りその影響を受けるすべての人々に光を投げかけた。友人や見知らぬ人にもいつも勇気を与える言葉を語り，あらゆる人々に暖かいほほえみを与えた。

クリッチロウ長老の幸福は，福音の原則に従う生活からもたらされた。一般大会の説教で彼は語った。末日聖徒は，

「おしなべてある性格を持っている。親しみはそのうちの一つであり，謙遜もそれにふくまれる。そして私が非常に喜びを感じることは指導者たちが親切であられることである。

しかし，それらにもまして最も顕著なのは，幸福であるということである。彼らの表情には実際に幸福があふれている。彼らはわずらいと問題を家に置いてきたように見える。霊を養おうと大会に集う彼らは，喜んで主を礼拝する。

彼らは幸福に違いない。我々の天父のたもうた幸福の律法を守る彼らはこの世で一番幸福な人々であろう。」

クリッチロウ長老は，人と神とに仕える，という幸福の源を，自身のうちに深くたくわえていた。彼は生涯を通じて他の人々に仕えた。生まれながらの指導者であった長老はただ組織に属するだけにとどまらず，数々の大きな責任を受けた。彼はすべての責任に心と力と熱意をそそいだ。ウェバー州立カレッジの自治会長，校友会長，会社役員，病院理事，スカウト役員，商工会議所議長，ライオンズ・クラブ会長，その他。

だが長老はまず第一にキリストの教会を愛し，そこで忠実によく主に仕えた。召しをあげると，12歳で神権会のオルガニストになり，その後，神権定員会や補助組織の教師，ワード部やステーキ部のＭＩＡ役員，ワード部日曜学校会長，ステーキ部高等評議員，ステーキ部長，教会幹部の責任を務めた。彼は救い主の神性，モルモン経の真実なこと，予言者ジョセフ・スミスの神聖な使命について，教会員であるとないとにかかわらず，あらゆる人々に証しした。

クリッチロウ長老は，自分の行ないや聖徒との交わりにおいて，正義ということを心にかけていた。彼はこらしめを必要だと思う事柄にも，ためらわず注意を向けた。しかし聖徒たちを叱責する時にも神権の精神を示し，親切と愛とをもって人々に接した。

雄弁で知られたクリッチロウ長老は，演劇に対しても鋭い眼識を持ち，数々の感銘深い物語を語りながら，福音の教えを生き生きと説いた。特に若い人々は彼の話を楽しみにしてステーキ部大会でも彼の話す時には，そわそわしている子供たちや，十代の人々が熱心に耳を傾ける光景は珍しくなかった。

クリッチロウ長老は福音と共に，まず家族を大切にした。

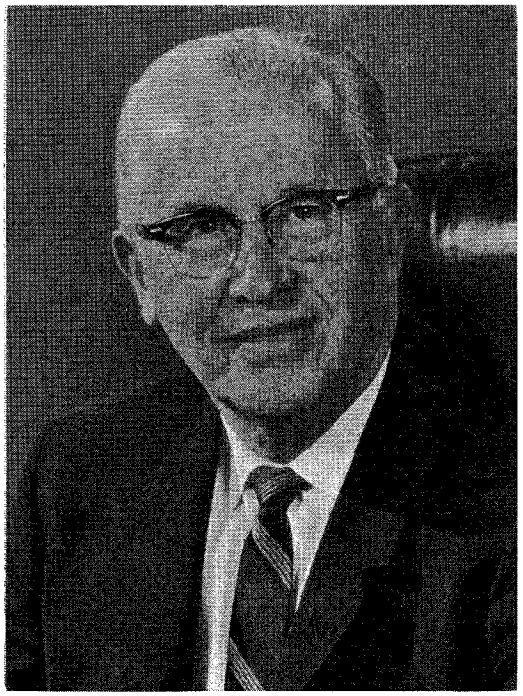
彼は指導者の地位に召された神権者に勧告した。「あなた方の第一の義務は家族に対して，そしてその次に召しに対してである」。宣教師を聖任する際にはこう語った。「少なくとも週に一回，両親に手紙を書き，あなたがご両親を愛し感謝していることを知らせなさい」

クリッチロウ夫妻は，共に全世界を旅する各地において聖徒たちにもすぐ知れるほどに，互いに愛と思いやりと尊敬を抱いていた。二人の息子と一人の娘，15人の孫がある。

彼はすべての子供たちを愛して，子供たちにひとかたならぬ思いをよせていた。クリッチロウ長老の葬儀には，ウェバーハイツ・ステーキ部からプライマリーに集う210人の子供たちが集まった。全員が白い服をまとい，敬けんに，静かに90分もの間すわっていた後，彼らは立って，クリッチロウ長老の好きな「わたしは神さまの子」を合唱した。その美しい歌声がタバナクルにやさしく響きわたった時，人々は，それこそ　N・エルドン・タナー副管長の語った言葉を証しするものであると感じた。タナー副管長はクリッチロウ長老を評て「彼の一生は世に対するメッセージである」と語った。

クリッチロウ長老の生涯

1892年８月21日：ユタ州ブリガム市に，ウイリアム　J. およびアンナ・グレガーソン・クリッチロウの息子として生まれる。
1924年８月20日：ソルトレーク神殿において，アンナ・マリア・テイラーと結婚。
1941年12月７日：サウスオグデン・ステーキ部の初代ステーキ部長に支持される。
1958年10月16日：十二使徒評議会補助に聖任
1968年８月29日：ユタ州オグデンにおいて76歳にて逝去。



十二使徒
ベンソン長老の
横顔

1943年10月以来，末日聖徒イエス・キリスト教会の十二使徒評議員会々員であり，アイゼンハワー大統領の就任中（8年間）農務長官であったエズラ・タフト・ベンソン長老は，その豊かな才能をもって多年教会に尽してこられた。以下はその略歴である。

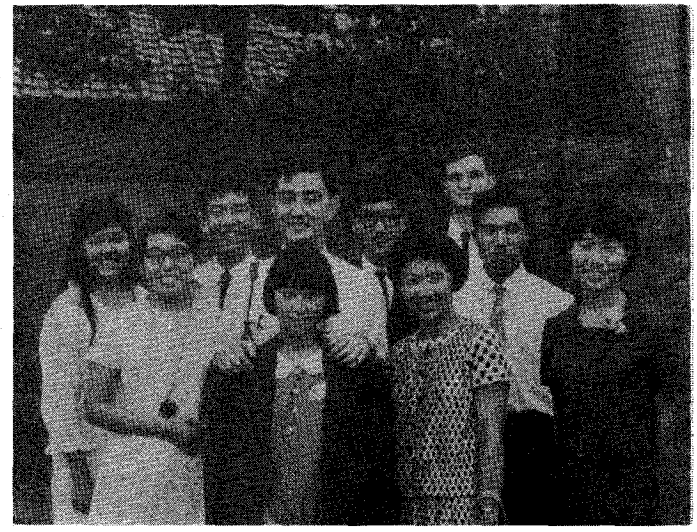
- 1899年８月４日アイダホ州ホイットニーに生まれる。両親は南アイダホ初期の入殖者。1847年７月24日，ブリガム・ヤングと共にソルトレークに最初の開拓者として入ったエズラ　T．ベンソン使徒は彼の曾祖父である。
- 若い頃，スカウト活動，神権活動，補助組織に活発に参加。オネイダ・ステーキアカデミーに入り後にローガンのユタ州立農業大学に学ぶ。
- 1921年から1923年まで英国に伝道。帰国後引き続きブリガム・ヤング大学に学び，優等で卒業し，アイオワ州立大学より奨学資金を受ける。ここで理学修士号を受け，卒業後カリフォルニア大学に働く。
- 1929年から1930年まで故郷アイダホの農業委員を務め，一年後ボイスのアイダホ大学に新らたに設置された農業経済学部の学部長におされる。
- 1933年～1937年まで，ボイスステーキ部長会にあり，翌年ステーキ部分割に伴いボイスステーキ部長となる。２年後ワシントンに移り，首都のワシントンステーキ部の初代ステーキ部長となり，1943年十二使徒に召されるまでその職にある。
- アイダホ農業協同組合の組織に尽力し，その初代理事長となる。1939年春4,600の協同組合グループからなる連邦農業協同組合連合会の会長に指名される。以来農業とボーイスカウトの分野で数々の諮問委員として働き，現在アメリカボーイスカウト連邦幹部会員，ブリガム・ヤング大学理事，世界20カ国に工場をもつコーン・プロダクト社を含むいくつかの商社の取締役を務めている。
- 1946年１月15日，ロンドンでヨーロッパ伝道部長に召される。当時，ヨーロッパの聖徒たちは困窮の状態にあり，ベンソン長老は，彼らの霊的な問題に対処するために派遣され，数々の伝道部を再開し，活発な伝道及び組織活動を行なった。また教会の福祉計画を通じて衣食住を供給し，聖徒の苦しみを軽くした。このため彼は10カ月間に６万マイルの旅を続け，人々を慰め，祝福を与え，彼らを組織して必要な援助を行なった。1946年12月11日この召しを解任される。
- アイゼンハワー大統領は，ベンソン長老の農業問題に対する経験だけでなく，そのきわだった才腕を認めて，1952年に彼の内閣の農務長官に迎えた1961年に教会の責任に全面的に復帰される。
- 十二使徒評議員の責任分担としてベンソン長老はオーストリア，中央ドイツ，北ドイツ，南ドイツ，西ドイツ，イタリー，スイス伝道部の管理者であったが，この度の変更により極東の担当になる。
- フローラ・スミス・アムゼン姉妹と結婚，二男四女の父である。

支部だより

長崎支部

全国の兄弟姉妹の皆さん，こんにちわ。

南国，長崎支部の近況を，お知らせします。ここ長崎で伝道が開始されてからもう二年になります。その当時の改宗第一号の大平兄弟が，このまえの大阪阿倍野の大会で大神権者になりました。新しく開設された支部で改宗し忠実にアロン神権の務めを果たし，大神権者となったのは，彼が最初だと思います。これで大神権者は三名（内一名は佐世保）となり会員数も三十四名と増え大きく発展しようとしています。各補助組織の活動も少しずつ活発になっており，近々には小規模ながらホームティーチングも行なおうとしており，完全な教会のプログラムに近づきつつあります。若い小さい支部としてのはがゆさも時としてありますが，みんな元気に頑張ろうという意欲に燃えています。



大阪大会に出席した長崎支部の会員たち

仙台支部

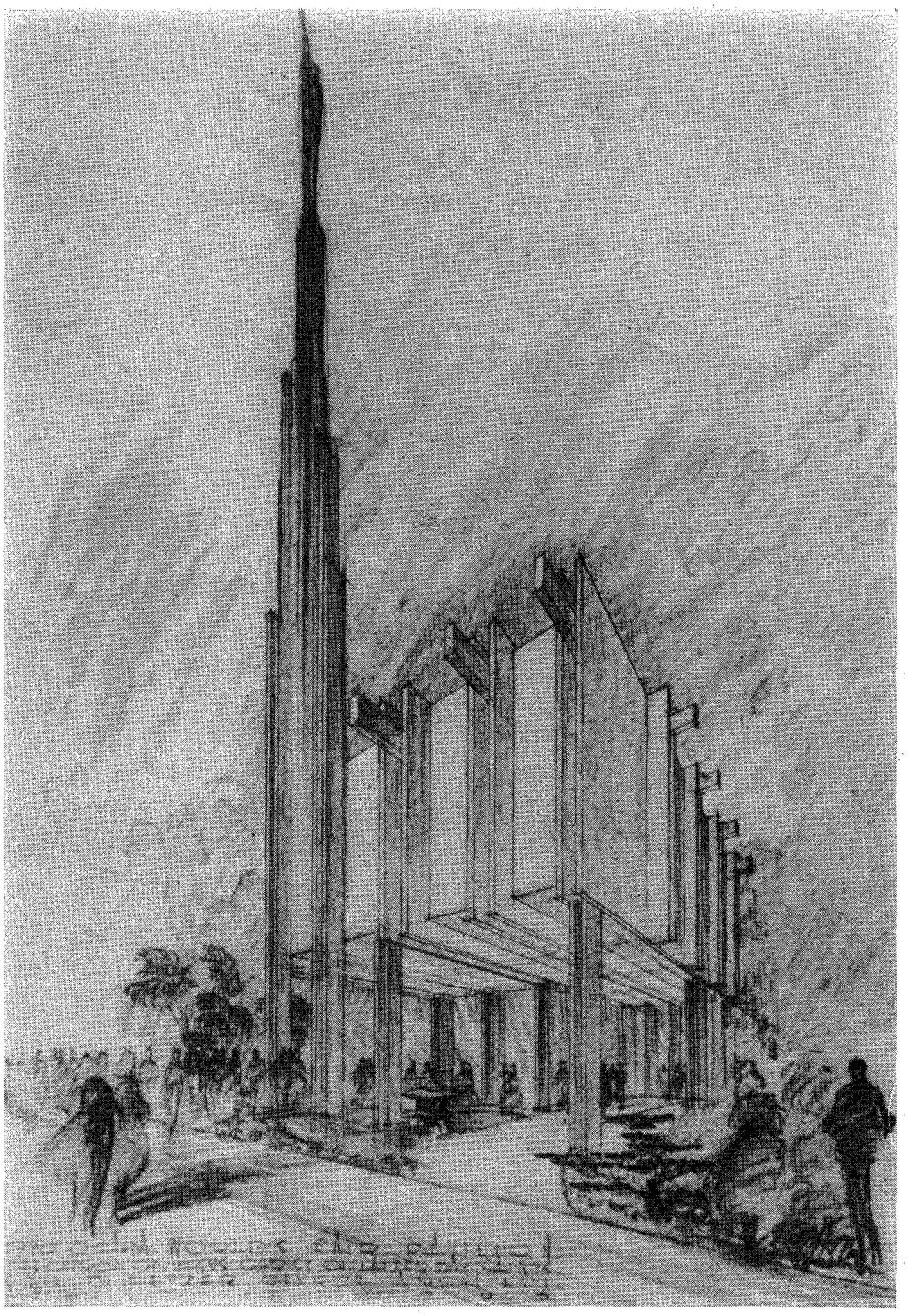
東北の秋は早く，稲の穂波がそろったかと思うと落葉が舞い始める。清流広瀬川も秋の影を宿しはじめている。仙台支部にとってこの秋は期するところが多い。その第一は，もちろん支部組織と活動の充実だ。十一月の地区大会を具体的な目安として，地方部を組織する日のために十分な力量を蓄積しておきたい。年内中に聖餐会出席百名の達成は可能だ。

それにしても教会堂の老朽と狭隘ぶりはどうしようもない。雨漏りも日に日に激しさを加え，台風シーズンの克服が目下の急務。家庭集会室，クラスルームも組織は拡充しても増やせない。何としても新築せねば！。日本最初の，自分達の働きで得た教会堂を持つ仙台の名にかけても，と目下建築資金活動に力を注いでいるところ。その一つ，十月十日には，本年第二回目の友愛セール，バザーを計画。春のバザーで十二万余の純益をあげた勢いにのってさらに資金を上積みし，年内に何とか百万台の額に到達したい。宣教師も世界の切手集めなどで熱心に協力しており，全支部一体となっての大きな成果が期待される。

お知らせ

新年度のテキストはもうお求めになりましたか。左記の新刊を含めて沢山の本が用意されていますので早めにお求めください。

昇栄への道	360円
家庭の夕べ	90円
不死不滅と永遠の生命	180円



EXPO 70 万国博覧会

モルモン．パビリオン

モルモン・パビリオンは1,000平方メートルの敷地に設けられ，建物は二階建てとなる。一階は床面積322平方メートルで，いくつかの事務所と休憩室があり，さらに日本庭園や二つの池が設けられる。階上は床面積598平方メートルで，中には四つの展示場と座席数50から75の映写室が二つある。床面積は延920平方メートルあり，階上は巨大な柱でささえられている。

建物は高さ8メートルで，15メートルの塔が聳えている。建物の構造は鉄筋コンクリート木造である。1969年3月までには工事が開始される。建築費は約7,200万円。

展示場では壁画と小さな立像を展示し，講演が行なわれる。

× × ×

真の宗教は幸福の探求に役立とうと努める。

私は何者なのか。
この世の目的は何か。
また死後も生きるであろうか。

幸福の探求こそ人の生き甲斐であることを確信されよ。
イエス・キリストの福音は耳を傾ける全ての人に与えられる。

このような事柄が展示物とフィルムを通して描き，くりひろげられる。この人生の目的とさらに死後の偉大な目的を説き明かすと私達は確信する次第である。

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六八年十月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十二巻第十号

スポークン ワード

リチャード・L・エバンズ

聴く時間をとりなさい

我々はみな助言を必要としている。助言を求めるのに加えて他に大切なことがある。それは，我々が事実についての充分な知識をもって人に助言を与えられるように，聴く時間をとるということである。ハニー・ストルーブは言った。「私は最近，『聴くこと』についてよく考える。……子供たちが『聞いてくれない』とこぼしている言葉をあなたはどれほど耳にするであろうか。そして『どうしてほしいの？』と答える母親がいかに多いことであろう。ほとんどの子供たちは実際に何かをしてほしいのではなく，ただ話しあって心をかよいあわせたいだけなのである」。子供や若人や他の人々に対して聴く時間をとること。……彼らは，性急な答えしか得られないために助言を求めるのをしぶることがある。ある人が語っている。「我々両親がよく，今は忙しい，というのはなぜなのか。子供というものは木の間から射す太陽の光のように，今ここにいると思うと次にはどこかへ行ってしまうということを，我々はどうして理解しないのか」。忍耐をもって語り，忍耐をもって聴く，喜びをもち，自ら進んで，性急に結論を出す前に充分に知ろうとすること。……彼らに話させて我々がただ聞くだけで，彼らが冷静になって確かな結論を自分で得ることもあろう。しかし二人の人が同時にしゃべり出したり，互いに話をはしょったり，まったく話しあわなかったりする時には，満足のゆく答えを得るのはむずかしい。たしかに聴くには時間がいる。しかしすでに犯した失敗を正すためにも，また時間はいるのである。ゲーリー・クリーブランド・マイヤーズは願った。

「愛する主よ，私をより良い両親となして下さい。子供を理解し，彼らの言うことを忍耐をもって聴き，質問すべてに親切に答えることをお教え下さい。私が彼らをさえぎったり，反論したり，否定したりしないように……，私が彼らに求めると同様に礼儀正しく，ていねいに，彼らに対することができるようにして下さい」。あまりに多く誤解し，まちがうため，そしてあまりに少ししか聴く時間をとらないため，なされるべき助言も満足になされない。最近こういうことが言われた。「鍵は意志の疎通である。『忙しいのがわからないの』という言葉を両親は絶対に口にしてはならない。すべての親は心に『聴く』という言葉を植えつけなくてはならぬ」。自分の言うことが聴いてもらえたと感じることができさえすれば……。そして，耳を傾けるべき時に心をこめて聴くことができさえすれば，どのようになるであろう……。

ＦＥＮ放送で毎日曜日 8：05～ 8：30a.m
まで、スポークン・ワードとタバナクル
コーラスが放送されています。

聖徒の道
1968年10月20日発行
振替口座　東京 76226 番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布５－８－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話 (442)7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　１００円
予　約　一年間 1,000円 （外国4ドル50セント）
電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ